

PROTECTOR SUITE QL

バージョン 5.8

著作権表示および所有権に関する情報

本資料で提供される情報は正確で信頼できるものです。ただし、UPEK[®], Inc は、ここに掲載された情報の使用の結果に対して、または掲載された情報を使用して発生した第三者の特許権などの権利に対する侵害について、いかなる保証も行いません。UPEK が所有する特許等の知的財産権その他の権利を許諾するものではありません。本資料に掲載された仕様は予告なく変更することがあります。この資料は、以前に提供されたすべての情報に優先し、かかる情報に置き換わるものとします。UPEK の製品は、UPEK の書面での承認なしに、人命にかかわるデバイスあるいはシステムに用いることはできません。

UPEK ロゴは UPEK の登録商標です。

© 2001-2008 UPEK[®], Inc - All Rights Reserved. 情報は予告なく変更することがあります。

その他すべての名称は、それぞれの所有者に所有権があります。

UPEK[®], Inc

<http://www.upek.com>

この製品には、OpenSSL Toolkit (<http://www.openssl.org/>) で使用することを目的に OpenSSL Project によって開発されたソフトウェアが組み込まれています。

この製品には Eric Young 氏 (eay@cryptsoft.com) が開発した暗号ソフトウェアが組み込まれています。

商標

UPEK、UPEK ロゴ、TouchChip[®]、および Protector Suite[™] は UPEK, Inc. の登録商標または商標です。この資料に掲載された他のすべての製品は個別の所有者の商標であり、個別に取り扱われます。

Protector Suite QL のインストール	3
Protector Suite QL のインストール	3
Protector Suite QL のアンインストール	4
はじめに	7
指紋の登録	8
主要機能へのアクセス	9
バイオメトリックメニュー	9
コントロールセンター	9
システムトレイアイコン	10
ヘルプの使用	11
Protector Suite QL の使用	13
指紋の登録	14
最初の使用	14
紹介	20
指紋チュートリアル	20
指紋ログオン	23
ユーザーの簡易切り替え	24
Windows パスワードの変更 (リセット)	25
パスワードバンク	27
Web ページとダイアログの登録	27
さまざまなフォーマットによる Web サイトやダイアログの登録	30
登録の管理	32
パスワードバンクのヒントの有効化 / 無効化	34
アプリケーションランチャー	36
File Safe	40
ファイルの暗号化	40
File Safe アーカイブのロックとアンロック	43
File Safe アーカイブのファイルの解読	45
File Safe アーカイブへのアクセスの共有	46
File Safe アーカイブの管理	48
Personal Safe	50
セキュリティトークン	53
RSA セキュア ID トークンのインポート	53
トークンコードジェネレータ	54
セキュリティトークンの管理	55
トークンの登録とリプレイ (パスワードバンク使用)	55
Protector Suite QL の管理	59

コントロールセンター	60
指紋	61
アプリケーション	65
設定	67
ヘルプ	84
紹介	84
バイオメトリックメニュー	86
システムトレイアイコン	87
指紋読み取り装置の情報パネル	89
Protector Suite QL の	
トラブルシューティング	91
インストール	91
指紋の登録	92
ユーザーの簡易切り替え	95
ログオン	96
パスワードバンク	96



第1章

Protector Suite QL のインストール

Protector Suite QL のインストール

Protector Suite QL は、Windows 2000、Windows XP Home/Professional Edition または Windows Vista がインストールされ、USB ポートの空きがあるコンピュータにインストールできます。Protector Suite QL のインストールまたはアンインストールには管理者権限が必要です。Protector Suite QL がコンピュータにプリインストールされている場合は、この章を飛ばして先に進んでもかまいません。

▶ Protector Suite QL をインストールするには：

- 1 *Protector Suite QL* の自動実行ウィンドウが表示されたら、[ソフトウェアインストール] をクリックします。この画面が表示されない場合は、手動で *Setup.exe* または *Setup.msi* を実行します。
- 2 [次へ] をクリックします。
- 3 インストールフォルダを確認するか、[参照] ボタンをクリックして別のフォルダを選択します。

- 4 [アプリケーションインストールの準備完了] ダイアログが表示されます。[次へ] をクリックしてインストールを開始します。Windows Vista でのインストール時は、インストールの続行を確認するプロンプトが表示されます。
- 5 インストールが完了したら、[完了] ボタンをクリックします。
- 6 プロンプトが表示されたら [はい] をクリックしてコンピュータを再起動します。Protector Suite QL の使用を開始する前にコンピュータを再起動する必要があります。

これでインストールは完了です。コンピュータを再起動すると、Windows への指紋ログオンが有効になります。ソフトウェアの使用を開始するには、指紋を登録する必要があります。14 ページの「指紋の登録」を参照してください。

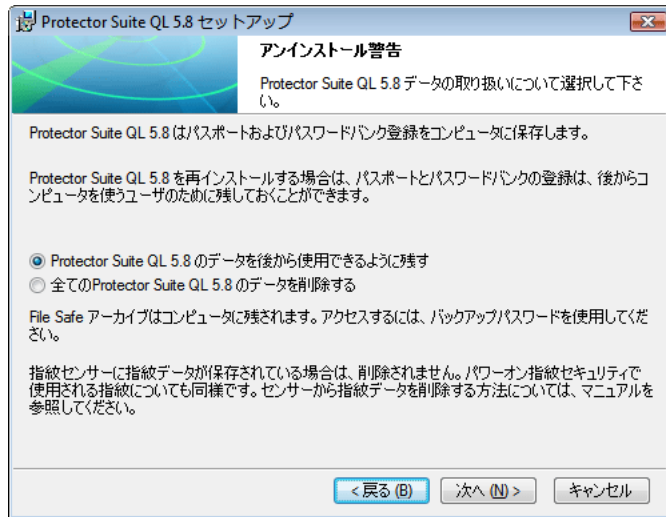


メモ：ソフトウェアのインストール時に、必要なデバイスドライバもすべてインストールされます。外部の指紋センサーを使用する場合は、インストールが完了しコンピュータを再起動したあとでセンサーを接続することをお勧めします。

Protector Suite QL のアンインストール

▶ Protector Suite QL をアンインストールするには：

- 1 [スタート]- [コントロールパネル] をクリックします。
- 2 [プログラムの追加と削除] アイコンをダブルクリックします (Windows Vista の場合は [プログラムと機能])。
- 3 [Protector Suite QL] を選択し、[変更] ボタンをクリックします。
- 4 [削除] ボタンをクリックします。



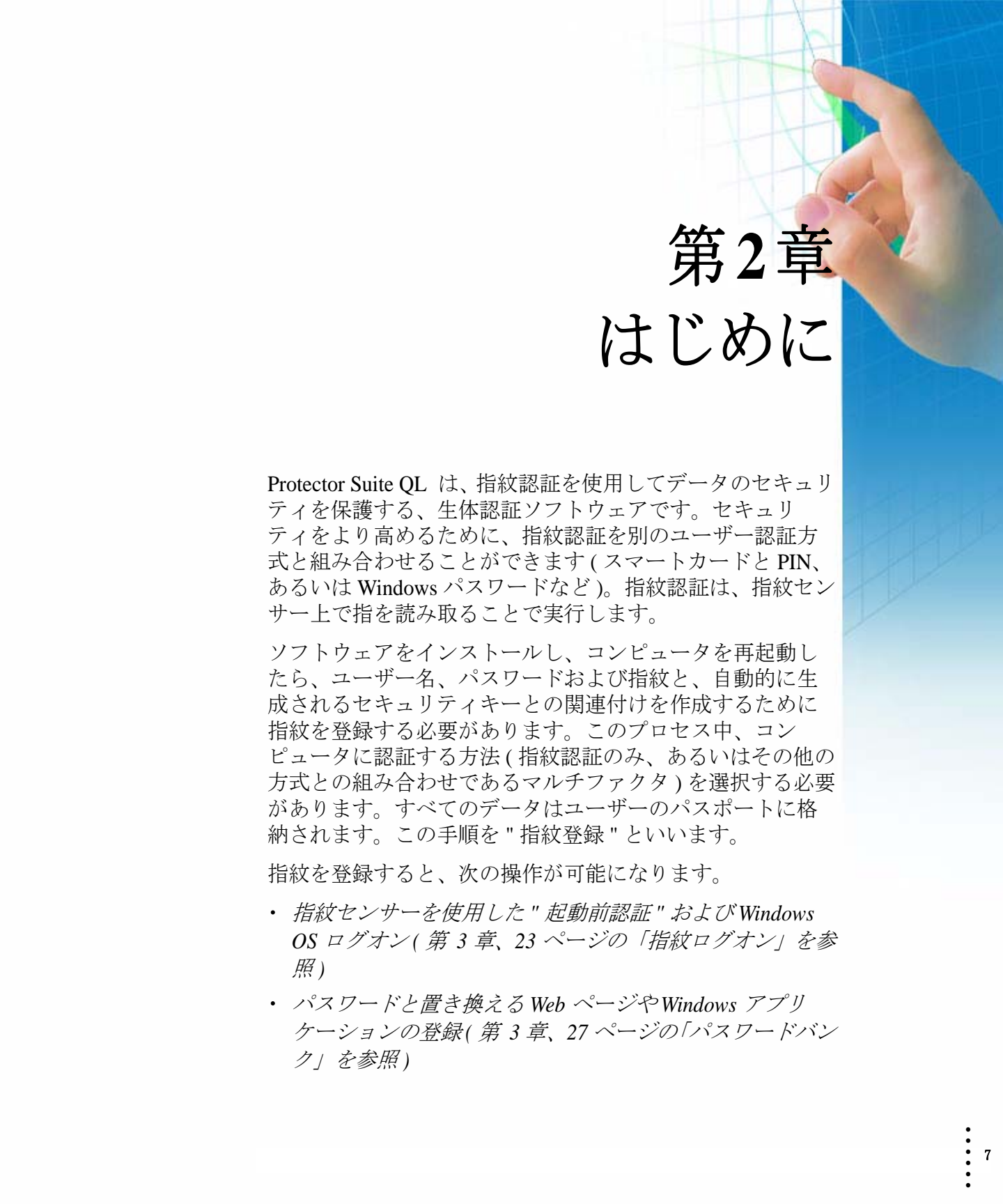
- 5 コンピュータに保存されている *Protector Suite QL* のデータの扱いを指定するよう求められます。次の2つの選択肢があります。

- ・ ***Protector Suite QL* のデータを後から使用できるように残す。** この場合、*Protector Suite QL* を後で再インストールすると、残しておいた指紋データを再び使用して、暗号化された *File Safe* アーカイブのデータにアクセスしたり、コンピュータにログインしたり、パスワードバンクの登録にアクセスしたりできるようになります。登録している指紋をコンピュータにログインするために使用し続けることができます。

- ・ **全ての *Protector Suite QL* のデータを削除する。**

登録された指紋やパスワードバンクの登録内容は完全に削除されます。

- 6 **[次へ]** をクリックして続行します。
- 7 アンインストールダイアログが表示されます。アンインストールを続行するには **[次へ]** をクリックします。アンインストールを終了するには **[キャンセル]** をクリックします。
- 8 アンインストールが完了したら、**[完了]** をクリックします。
- 9 **[はい]** をクリックしてコンピュータを再起動します。



第2章 はじめに

Protector Suite QL は、指紋認証を使用してデータのセキュリティを保護する、生体認証ソフトウェアです。セキュリティをより高めるために、指紋認証を別のユーザー認証方式と組み合わせることができます(スマートカードと PIN、あるいは Windows パスワードなど)。指紋認証は、指紋センサー上で指を読み取ることで実行します。

ソフトウェアをインストールし、コンピュータを再起動したら、ユーザー名、パスワードおよび指紋と、自動的に生成されるセキュリティキーとの関連付けを作成するために指紋を登録する必要があります。このプロセス中、コンピュータに認証する方法(指紋認証のみ、あるいはその他の方式との組み合わせであるマルチファクタ)を選択する必要があります。すべてのデータはユーザーのパスポートに格納されます。この手順を "指紋登録" といいます。

指紋を登録すると、次の操作が可能になります。

- ・ 指紋センサーを使用した "起動前認証" および Windows OS ログオン(第3章、23 ページの「指紋ログオン」を参照)
- ・ パスワードと置き換える Web ページや Windows アプリケーションの登録(第3章、27 ページの「パスワードバンク」を参照)

- ・ センサーでの指の読み取りのみによるお気に入りアプリケーションの起動(第 3 章、36 ページの「アプリケーションランチャー」を参照)
- ・ 機密情報を暗号化されたフォーマットで保護されたフォルダへ保存(第 3 章、40 ページの「File Safe」を参照)

この章では、ソフトウェアの操作を容易に始められるように主要機能について説明します。各機能の詳細な説明については、第 3 章、13 ページの「Protector Suite QL の使用」を参照してください。また、Protector Suite QL を制御および管理する方法については、第 4 章、57 ページの「Protector Suite QL の管理」を参照してください。



メモ：各 Windows ユーザーは Protector Suite QL 固有のパスポートを作成する必要があります。

指紋の登録

Protector Suite QL では、各ユーザーの識別にパスポートを使います。このファイルには生体認証用の指紋データが格納され、ユーザーの認証に使用されます。

ソフトウェアを初めて使用するときには、パスポート用に指紋のサンプルを作成する必要があります。

▶ [登録] ウィザードを起動するには：

- ・ [スタート]- [すべてのプログラム]- [**Protector Suite QL**]-[**ユーザー登録**] を選択します。

認証し (ある場合は Windows パスワードを求められます)、使用したい認証方式を選択します (指紋のみ、指紋とスマートカードなど)。詳細については、第 3 章、14 ページの「指紋の登録」を参照してください。

主要機能へのアクセス

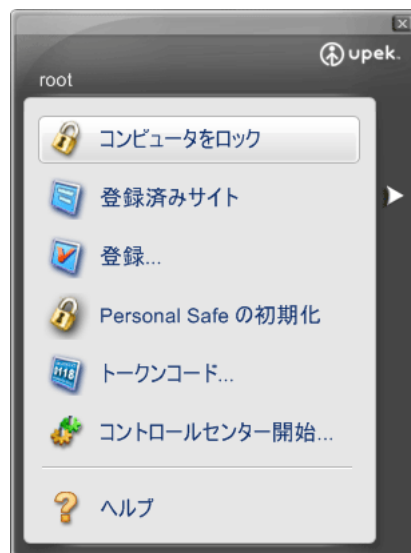
バイオメトリックメニュー

バイオメトリックメニューでは、コンピュータのロック、登録済みサイトの起動、Web サイトやダイアログの登録、アーカイブファイルのロック、あるいは[ヘルプ]の表示といった、Protector Suite QL の機能への簡単なアクセスが実現されます。

▶ バイオメトリックメニューを表示するには：

- いずれかの指を登録すれば、その指を指紋センサーで読み取ることで、バイオメトリックメニューを表示できます。

バイオメトリックメニューを理解するために第 4 章、86 ページの「バイオメトリックメニュー」を参照してください。



コントロールセンター

Protector Suite QL の[設定]の全般的な設定や、[指紋]の管理機能には(パスポートの編集や削除など)、[コントロールセンター]ダイアログからアクセスできます。

▶ コントロールセンターを表示するには：

- [スタート]-[すべてのプログラム]-[Protector Suite QL]-[コントロールセンター]を選択します。
- 指を読み取ってバイオメトリックメニューを表示し、[コントロールセンター開始...]を選択します。
- トレイアイコンを右クリックし、[コントロールセンター開始...]を選択します。

コントロールセンターのメイン画面が表示されます。この画面には、Protector Suite QL の主要機能が表示されます。これには、[指紋]、[アプリケーション]、[設定]、[ヘルプ]があります。

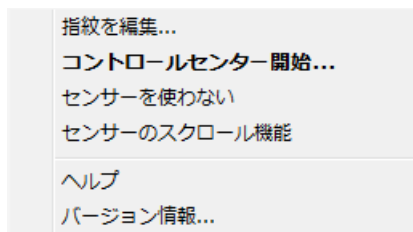


コントロールセンターとその機能についてもっとよく理解するには、第 4 章、60 ページの「コントロールセンター」を参照してください。

システムトレイアイコン

システムトレイの Protector Suite QL アイコンはプログラムが実行中であることを示し、指紋認証を必要としない機能へのアクセスを提供します。

- ▶ アイコンを右クリックして、メニューを表示します。



システムトレイアイコンのメニュー項目をもっとよく理解するには、第 4 章、87 ページの「システムトレイアイコン」を参照してください。

ヘルプの使用

Protector Suite QL には、HTML ベースのヘルプシステムが用意されています。

▶ HTML ヘルプを表示するには：

- ・ [スタート]- [すべてのプログラム]- [**Protector Suite QL**]- [ヘルプ] を選択します。
 - ・ バイオメトリックメニューから [ヘルプ] を選択します。
 - ・ トレイアイコンを右クリックし [ヘルプ] を選択します。
 - ・ コントロールセンターダイアログの [ヘルプ] アイコンをクリックします。
- また、ほとんどのダイアログで状況依存のヘルプを表示できます。

▶ 状況依存のヘルプを表示するには：

- ・ HTML ヘルプが必要なダイアログで **F1** を押します。



第3章 Protector Suite QL の使用

この章では、Protector Suite QL の機能について詳しく説明します。

- 14 ページの「指紋の登録」
- 23 ページの「指紋ログオン」
- 27 ページの「パスワードバンク」
- 36 ページの「アプリケーションランチャー」
- 40 ページの「File Safe」
- 53 ページの「セキュリティトークン」

指紋の登録

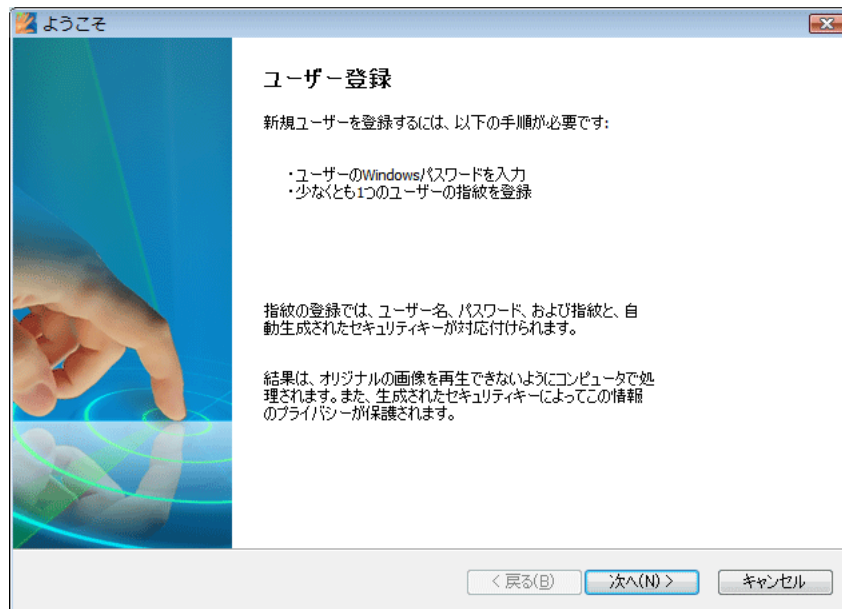
Protector Suite QL の使用を始める前に、(複数の) 指を登録する必要があります。指紋の登録は、ユーザー名、パスワードおよび (元の画像の再現ができないように電子化された) 指紋と、自動生成されたセキュリティキーとの関連付けを作成するプロセスです。すべてのデータは指紋パスポートに保存されます。

セキュリティをより高めるために、指紋認証はスマートカードと PIN の認証と、あるいは Windows パスワードなどと組み合わせることができます。パスポートを作成する前に、認証方式を選択することができます (指紋 + スマートカードなど)。少なくとも 1 本の指を登録してください。

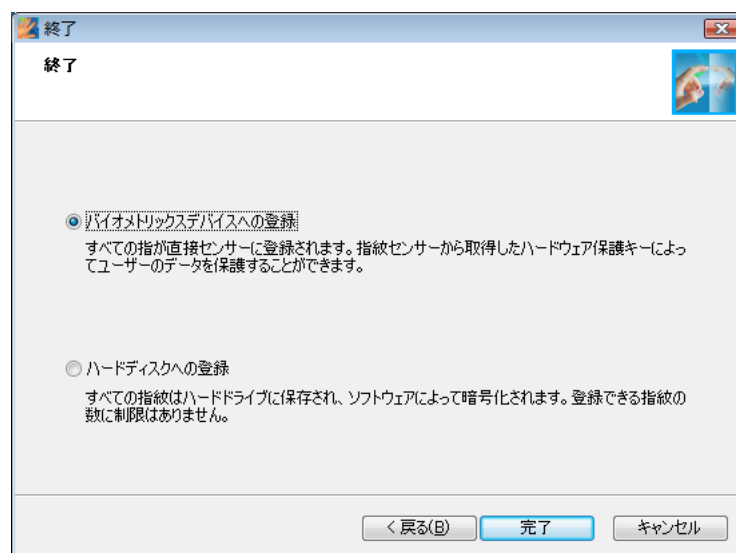
最初の使用

▶ 新しいパスポートを作成するには (指紋の登録) :

- 1 外付け指紋センサーを使う場合、そのデバイスを接続します。必要なドライバはすべて **Protector Suite QL** と共にインストールされています。センサーが接続され、使用する準備が完了したという情報メッセージが、画面の右下に表示されます。
- 2 [登録] ウィザードを起動するには、以下の操作を行います。
 - ・[スタート]- [プログラム]- [**Protector Suite QL**]- [ユーザー登録]
 - ・または、[コントロールセンター] で [指紋]- [初期化] を選択します。
 - ・または、トレイアイコンで右クリックして [指紋の編集 ...] を選択します。
 - ・または、センサーで読み取り、開始ページの [指紋登録の開始] リンクをクリックします。
- 3 使用許諾契約書が表示されます。使用許諾契約書をよくお読みください。
- 4 使用許諾契約書に同意するかどうか、ラジオボタンで選択します。メモ：この製品をインストールするためには使用許諾契約書に同意する必要があります。使用許諾契約書に同意できない場合は [キャンセル] ボタンをクリックして、アプリケーションを終了してください。




- 5 登録タイプを選択するように求められます。デバイスがデバイスメモリへの登録に対応している場合、認証データをデバイスメモリに保存するか、ハードディスクに保存するかを選択できます。

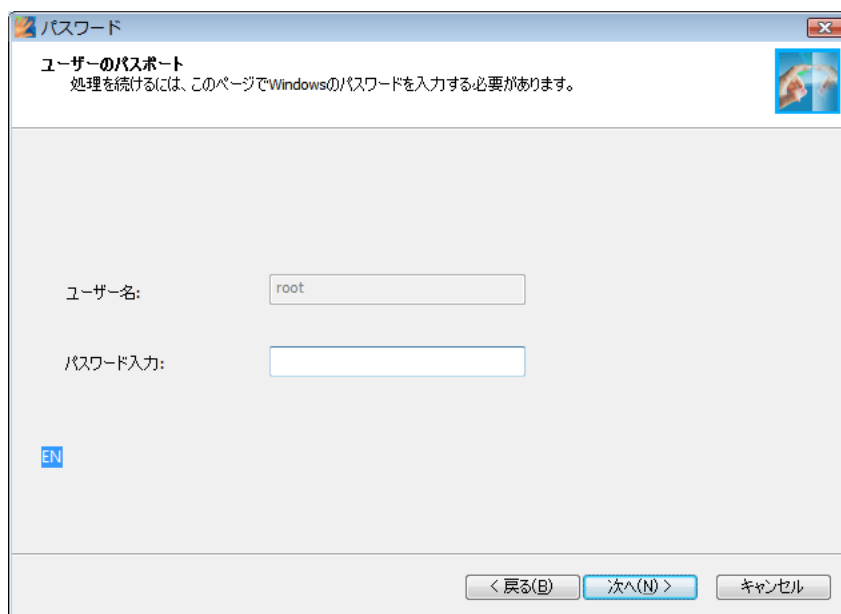


- ・ デバイスメモリへの登録を選択した場合、データにアクセスする際に対応する指紋デバイスが必要になります。認証情報は、指紋認証ユーティリティによって生成されたソフトウェアの暗号化キーだけではなく、デバイスから直接取得したハードウェアの暗号化キーによっても保護されます。

- ・ 制限はデバイスメモリのサイズのみです。複数のユーザーに対する大量の指紋を登録する場合、ハードディスクへの登録が必要になります。[ハードディスクへの登録]を選択した場合、データはソフトウェアキーで暗号化されます。生体認証を任意の指紋読み取り装置で行うことができます。

 **重要：**選択した登録タイプを後から変更することはできません。変更する唯一の方法は、**Protector Suite QL** をアンインストールして、再インストールすることです。

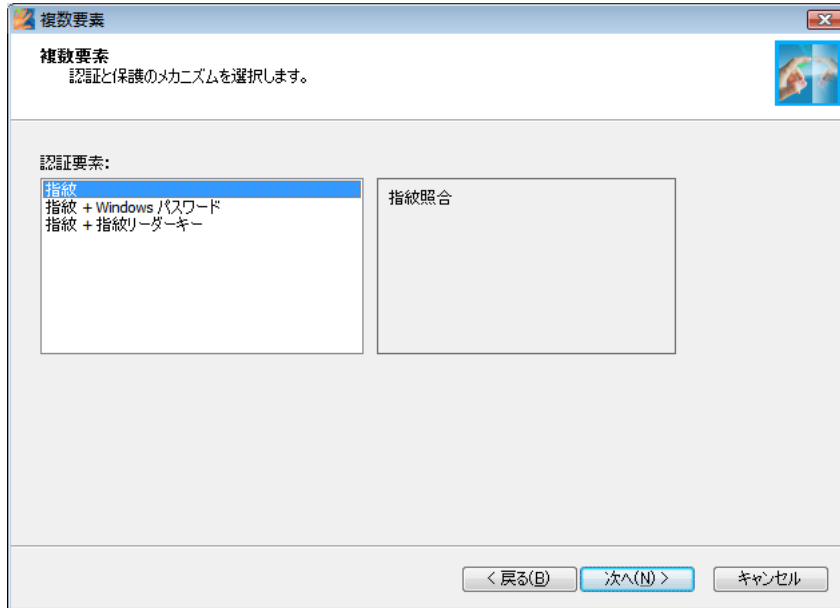
- 6 ユーザー名、パスワード、ドメイン(該当する場合)を入力し [次へ] をクリックします。



- 7 [マルチファクタ] ダイアログが表示されます。**Protector Suite QL** のセキュリティは、暗号化を適用することによってさらに向上します。使用できる暗号の種類はハードウェアによって異なります。

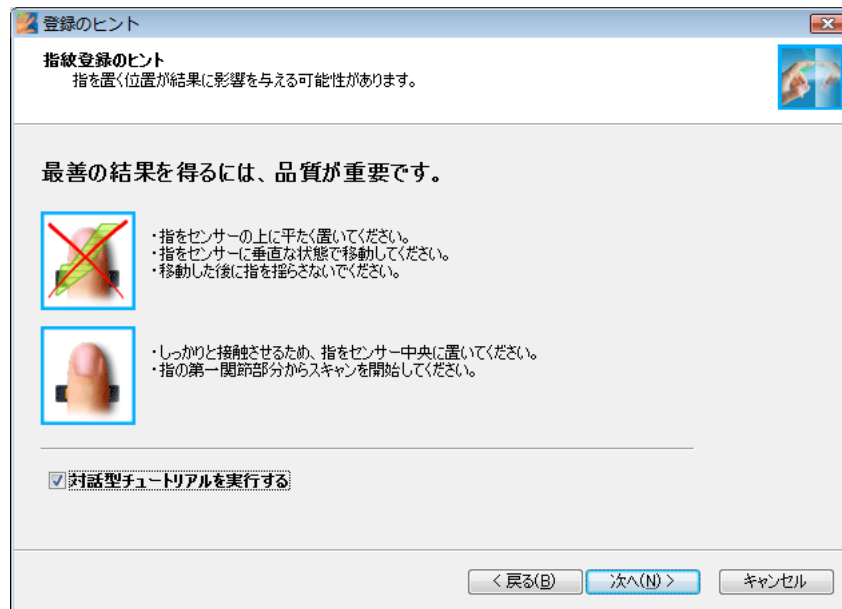
マルチファクタ方式

認証方式を選択します。次回認証を求められるとき、選択した方式が必要になります(コンピュータにログイン、Web ページを登録など)。これはすべての登録されている指紋に適用されます。



- ・ **指紋**：指紋認証のみが求められます。
- ・ **指紋+ 指紋リーダーキー**：ユーザーの機密データは、指紋デバイスに格納されているキーを使用して暗号化されます。指紋照合が正常に行われないうちは、このデータにアクセスできません。怪我やデバイスの問題などが発生した場合は、バックアップパスワードを使用できます。バックアップパスワードを設定しておかないと、認証ハードウェアが故障した場合、データが失われてしまう恐れがあります。
- ・ **指紋+ スマートカード**：指紋認証と登録済みのスマートカードの挿入の両方が必要になります。怪我やデバイスの問題などが発生した場合は、バックアップパスワードを入力します。次のダイアログで、スマートカードリーダーを選択し、カードを挿入します。PIN を入力します。PIN は保存され、認証中に自動的にリプレイされます。
- ・ **指紋+ スマートカード+ PIN**：この組み合わせは、認証が必要なときは毎回ユーザーにPIN の入力を要求することで、これまでの方式のセキュリティを強化します。怪我やデバイスの問題などが発生した場合は、バックアップパスワードを入力します。

- ・ **指紋+ Windows パスワード**：認証のたびに、指紋認証と Windows パスワードの入力が要求されます。
 - ・ **指紋+ TPM 指紋リーダーキー**：ハードウェアベースのセキュリティを向上します。TPM セキュリティチップと指紋読み取り装置の通信チャネルを暗号化することにより、機密データのセキュリティをさらに高めます。最高のセキュリティを必要とする場合にお勧めの方式です。
 - ・ **指紋+ TPM キー**：ユーザーの機密データは、TPM セキュリティチップにより保護されます。非常に使いやすいのでお勧めです。
 - ・ **指紋+ TPM キー(PIN あり)**：ユーザーの機密データは、TPM セキュリティチップにより PIN 付きで保護されます。PIN は ID 認証のたびに入力する必要があります。セキュリティを高めるためにはお勧めの方式です。
- 8 [次へ] をクリックして指紋チュートリアルを開始するかチュートリアルをスキップするかを選択します。スキップするには、[対話型チュートリアルを実行] チェックボックスをオフにして[次へ] をクリックします(チュートリアルの説明は 20 ページの「指紋チュートリアル」を参照)。



9 登録したい指の上のボックスをクリックします。



チュートリアルの説明に従って選択した指のスキャン画像を5つ作成します(を参照)。20 ページの「指紋チュートリアル」これらのサンプルは、1つの指紋パスポートに統合されます。作成したサンプルが一致しない場合は警告が表示されるので、手順を繰り返す必要があります。

- 10 (オプション) デバイスへの登録が選択され、システム設定でパワーオンセキュリティが有効になっている場合、登録されているすべての指紋はパワーオンセキュリティにも使用されます。
- 11 (オプション) ハードドライブへの登録が選択され、システム設定でパワーオンセキュリティが有効になっている場合、登録されている指紋はパワーオンセキュリティにも使用されます。

デバイスメモリには制限があります。パスポートに登録されている指紋の中に、デバイスのパワーオンセキュリティに割り当てられていないものがある場合(別のデバイスが接続されている場合など)、それぞれの指の上に「パワーオン」ボタンが表示されます。既定では、「パワーオン」ボタンは「押された」状態で表示されます。対応する指がパワーオンセキュリティに使用されます。パワーオンセキュリティに指を使用せず、ログオンにのみ使用する場合、「パワーオン」ボタンをクリックして、デバイスメモリから指を削除します。

- 12 (オプション) お使いの **BIOS** が安全な **BIOS** パスワードに対応している場合、[パワーオンセキュリティ] ページが表示されます。指紋の代わりに使用するパスワードを選択します(パスワードを選択すると、パスワードを入力するように求められます)。ローカルの管理者は、ここから **BIOS** のパスワードを管理することもできます。[パスポートの管理] ボタンをクリックすると、[**BIOS** パスワード] ダイアログが開き、パスポートを設定、または変更できます。
- 13 別の指を選択してその指紋を登録します。最大 10 本の指の指紋を登録できます。指をケガした場合を考慮し、複数の指を登録することを強く推奨します。終了したら、[次へ] をクリックします。
- 14 パワーオンセキュリティに追加されている指については、最終ページで説明されている以下の操作を実行する必要があります。
 - ・ コンピュータの電源を切ります。
 - ・ コンピュータの電源を入れます。
- 15 これで終了です。[完了] をクリックしてください。



メモ：パスポートは、Windows のユーザーごとに 1 つしか作成できません。ユーザーアカウントを作成するには、[スタート] - [コントロールパネル] を選択し、[ユーザーアカウント] をクリックします。画面の指示に従って操作してください。

紹介

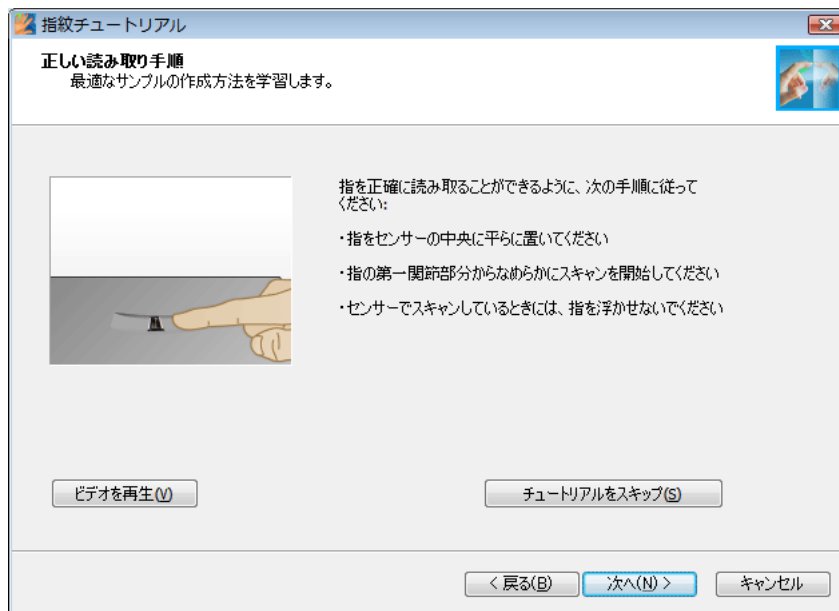
指紋が登録されていない場合に指をセンサーでスキャンすると開始ページが表示されます。このページには Protector Suite QL 製品の紹介に進むリンクと指紋登録に進むリンクが含まれます。あとから [コントロールセンター] - [ヘルプ] - [紹介] からアクセスすることができます。

指紋チュートリアル

指紋チュートリアルを実行することを強くお勧めします。チュートリアルでは、指紋の正しいスキャン方法、誤ったスキャン方法を、短いビデオで説明しています。また、実際に指紋をスキャンしてみることができます。

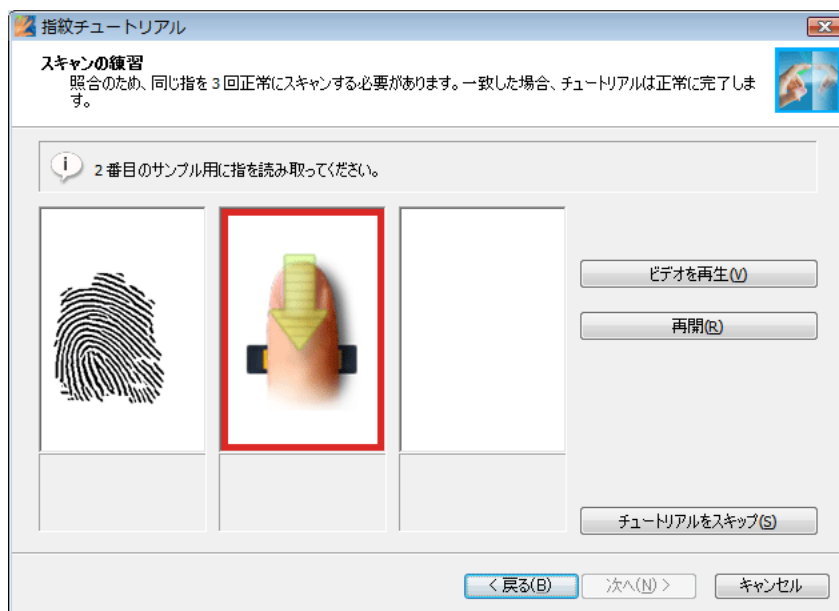
▶ 指紋に関するチュートリアルを実行するには：

- 1 チュートリアルを起動するには、[スタート]- [Protector Suite QL]- [指紋チュートリアル] を選択します。
指紋登録のウィザードから実行します。
コントロールセンターダイアログで、[ヘルプ]- [チュートリアル] を選択します
- 2 最初のページでは、チュートリアルの目的が説明されます。
- 3 次のページでは、正しいスキャン方法の説明と、短いデモンストレーションビデオが表示されます。



- ・ センサーの中央に指を平らに置きます。
- ・ 指の第一関節から滑らかになぞってスキャンします。
- ・ センサーでスキャンしている間、指を上げないでください。

- 4 次のページでは、指紋のサンプルを作成します。サンプルどうしが一致しない場合は、[再開] ボタンをクリックして再度読み取ります。[ビデオ再生] ボタンでビデオのデモンストレーションを再生できます。サンプルを正しく作成できたら、[完了] をクリックしてチュートリアルを閉じるか、登録ウィザードに戻ります。




指紋ログオン

指紋ログオンを有効にするには、指紋を登録する必要があります (14 ページの「指紋の登録」を参照)。ユーザー登録時に、指紋サンプルがスキャンされ、指紋サンプルと Windows ユーザーアカウントが関連付けられます。コンピュータを再起動しもう一度ログオンする場合、ログオンダイアログにより認証が求められます。Ctrl + Alt + Del を押して指紋認証をバイパスし、Windows パスワードを使用してログオンすることができます。

生体認証ログオンではまた、スクリーンセーバーと節電機能からの復帰が保護されます (パスワードでスクリーンセーバーからのレジュームが保護され、システムはスタンバイに設定されます)。

スクリーンセーバーのパスワードを設定するには、[スタート] - [コントロールパネル] を選択し、[画面] をクリックして [スクリーンセーバー] タブを選択します。

 Windows Vista をご使用の場合は、[スタート] - [コントロールパネル] を選択し、[個人設定] アイコン - [スクリーンセーバー] アイコンをクリックします。

▶ 指紋ログオンを無効にするには：

- [スタート] - [プログラム] - [**Protector Suite QL**] - [コントロールセンター] を選択します。
または、指を読み取ってバイオメトリックメニューを表示し、[コントロールセンター] を選択します。
- [設定] - [システム設定] - [ログオン] を選択します。
- [標準の Windows ログオン] ラジオボタンを選択します。指紋ログオンが無効になり、システムに標準の Windows ログオンを使用してログオンできるようになります。

▶ 指紋ログオンを有効にするには：

- [スタート] - [プログラム] - [**Protector Suite QL**] - [コントロールセンター] を選択します。
または、指を読み取ってバイオメトリックメニューを表示し、[コントロールセンター] を選択します。
- [設定] - [システム設定] - [ログオン] を選択します。
- [指紋ログオン] ラジオボタンを選択すると、Windows パスワードの代わりに指紋を使用したシステムログオンが有効になります。

ログオン設定の詳細については、第 4 章「コントロールセンター」の 68 ページの「ログオン」を参照してください。



メモ：コンピュータの保護のためには Windows パスワードを設定しておく必要があります。Windows パスワードを設定しておかないと、Protector Suite QL があってもアクセスの安全性を保証することはできません。

Protector Suite QL は、Novell ネットワークのログオンとも連携します。Protector Suite QL で自動的に Novell ネットワークにログオンするためには、Windows のユーザー名とパスワードが Novell のユーザー名とパスワードと一致する必要があります。Novell クライアントの 4.83 および 4.90 では、Protector Suite QL は動作しません。

ユーザーの簡易切り替え

Windows のユーザーの簡易切り替え機能にも対応しています。ユーザー A がログオン中の場合にユーザー B (ユーザー登録済み) がセンサーで指をスキャンすると、Protector Suite QL によってユーザー B の指紋が認識され、ユーザーが切り替えられます。

▶ ユーザーの簡易切り替え (FUS) を有効にするには：

- 1 [スタート]- [プログラム]- [**Protector Suite QL**]-[コントロールセンター] を選択します。
または、指を読み取ってバイオメトリックメニューを表示し、[コントロールセンター] を選択します。
- 2 [設定]- [システム設定] を選択します。
- 3 [ログオン] タブを選択します。
- 4 Windows XP のみ：[ユーザーの簡易切り替え] オプションを有効にします。このオプションが表示されていない場合、FUS はお使いのシステムではサポートされていません(コンピュータがドメインのメンバである場合など。Fus サポートを有効にするには、ドメインからコンピュータを削除する必要があります)。

▶ コンピュータをドメインから削除するには：

- 1 デスクトップまたは [スタート] メニューで [マイコンピュータ] (Windows Vista では [コンピュータ]) を右クリックし、[プロパティ] を選択します。
- 2 Windows Vista の場合は、[設定の変更] リンクをクリックして、自分自身を管理者として認証します。

- 3 [コンピュータ名] タブを選択します。
 - 4 [変更] ボタン(または [名前の変更]) をクリックして、[所属するグループ] パネルの [ワークグループ] ラジオボタンを選択します。
-



メモ：ドメインからコンピュータを削除できるのは管理者だけです。

Windows パスワードの変更 (リセット)

Windows ログオンパスワードは、ユーザーがコントロールパネルまたは **Ctrl + Alt + Del** ダイアログを使用して変更することも、管理者がパスワードリセットを使用して変更することもできます。Protector Suite QL に対しては、両方のパスワードの変更方法に違いはありません。シナリオは、使用されるユーザーアカウントの種類と、ユーザーがコンピュータにログオンする方法によって異なります。

これは、Windows 2000、および Windows XP に適用されます (Windows Vista では、機能は似ていますが表示される GUI が異なります)。

ワークグループまたはドメイン内のコンピュータでローカルユーザーアカウントが使用された場合、次の 2 つのシナリオが考えられます：

- 1 ユーザーが Windows のユーザー名とパスワードを使用してログオンした後にパスワードが変更された場合。
 - ・ ユーザーがコンピュータをロックするか、またはログオンします。
 - ・ ユーザーが登録済みの指紋をスキャンします。
 - ・ 間違ったユーザー名またはパスワードが使用されているという警告が表示されます。
 - ・ ユーザーは新しいパスワードを入力する必要があります。このパスワードが指紋パスポートに格納され、パスポートが更新され、ユーザーはコンピュータにログオンされます。次回以降の指紋ログオンは通常どおりに行われます。
- 2 ユーザーが登録済みの指紋を使用してログオンした後にパスワードが変更された場合。
 - ・ パスワードは指紋パスポートに格納されます。後で新しいパスワードを再入力する必要はありません。
 - ・ ユーザーがコンピュータをロックするか、またはログオフします。
 - ・ ユーザーが登録済みの指紋を読み取ります。

- ・ コンピュータがアンロックされるか、またはユーザーがログオンします。

ドメイン内でドメインユーザーアカウントが使用された場合：


ユーザーが Windows のユーザー名とパスワードまたは登録済みの指紋を使用してログオンし、その後でパスワードが変更された場合。

- ・ ユーザーがコンピュータをロックするか、またはログオンします。
- ・ ユーザーが登録済みの指紋をスキャンします。
- ・ 間違ったユーザー名またはパスワードが使用されているという警告が表示されます。
- ・ ユーザーは新しいパスワードを入力する必要があります。このパスワードが指紋パスポートに格納され、パスポートが更新され、ユーザーはコンピュータにログオンされます。次回以降の指紋ログオンは通常どおりに行われます。

特殊なケース：

" ユーザーは次回のログオン時にパスワード変更が必要 " が設定されているか、またはドメイン上でパスワードの有効期限が指定されている場合。

- ・ クライアントコンピュータ上でユーザーが登録済みの指紋を使用してログオンします。
- ・ ユーザーにパスワードを変更するよう求めるダイアログが表示されます。このパスワードが指紋パスポートに格納され、パスポートが更新され、ユーザーはコンピュータにログオンされます。次回以降の指紋ログオンは通常どおりに行われます。

 **重要：** Windows のユーザー名を変更すると、Protector Suite QL のユーザーパスポート (登録済みの指紋) は削除されます。バックアップを作成していた場合はバックアップパスワードをインポートし、そのバックアップパスワードと Web 登録を入力することで暗号化ファイルにアクセスできます。

パスワードバンク

パスワードバンクは Protector Suite QL のオプション機能です。インストールすると、パスワードバンクは頻繁に使用する Web サイトやアプリケーション (Web メール、銀行口座、E コマースなど) にアクセスできるよう、Web サイトおよびアプリケーションダイアログの登録 (ユーザー名、パスワードなどの設定) を保存します。ユーザー名、パスワード、およびフォームデータを再び入力する手間が省けます。Web ページやダイアログを登録する際に 1 回だけ必要な情報を入力すれば、次回以降、同じウィンドウを開いたときに、センサーを使ってデータをリプレイできるのです。登録済み Web サイトは、バイオメトリックメニューから直接開くことができます。

パスワードバンクは、Internet Explorer 5.0 以降、および Firefox 1.0 ~ 2.0 をサポートしています。Internet Explorer のサポートは自動的にインストールされます。Protector Suite QL を初めて開始するとき、または登録された指紋がない状態で開始するとき、Firefox をサポートするためにプラグインをインストールするかどうかをたずねるプロンプトが表示されます。もしくは、firefox プラグインのインストールは [コントロールセンター] - [アプリケーション] - [通知] - [パスワードバンク] タブから実行することができます。



メモ : 64 ビットシステム上で実行中の 32 ビットアプリケーションの登録はサポートされません



(Windows Vista のみ)。ユーザーアカウント名が "Administrator" (メモ : これは組み込みアカウントであり、デフォルトでは無効になっています) の場合、パスワードバンクでは Internet Explorer はサポートされません。

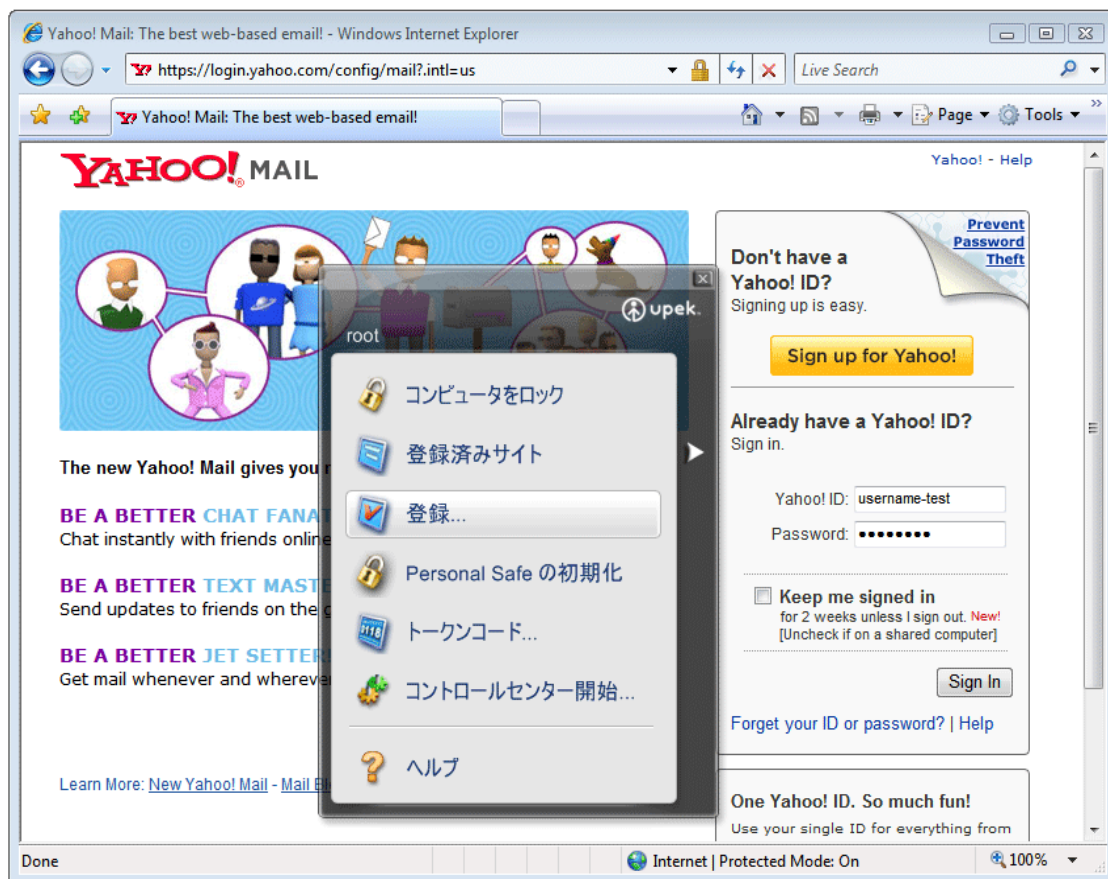
Web ページとダイアログの登録

後からリプレイできるように、Web サイトやダイアログを登録して Web サイトおよびパスワードダイアログの登録 (ユーザー名、パスワードなどの設定) を保存する必要があります。リプレイとは、(センサーで指をスキャンして) 認証したあとで自動的にそれらの登録が入力されることです。


▶ 新しい登録を作成するには :

- 1 登録したい Web ページまたはダイアログを表示します。
- 2 ユーザー名、パスワードおよびその他の必要なフィールドを入力します。
- 3 あらかじめ登録しておいた指を使ってバイオメトリックメニューを開きます。[登録] を選択します。
または

パスワードフィールドを含む Web ページの場合は、送信時に入力したデータをパスワードバンクに登録するかどうかなぞをたずねるダイアログが自動的に表示されます。[はい] をクリックします。



入力したすべてのデータが保存されます。登録を作成したら、登録が作成されたことを確認するヒントがブラウザの隅に表示されます。

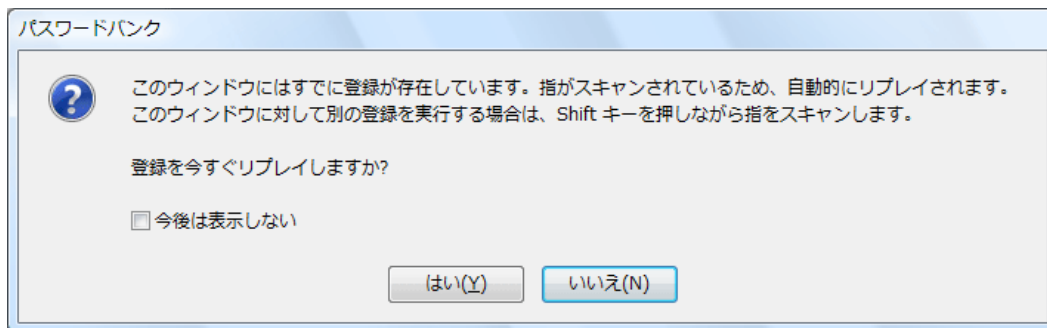
 **メモ：** ヒントの有効化 / 無効化を切り替える場合、または登録支援するダイアログを無効にしているが再び有効にしたい場合は、34 ページの「パスワードバンクのヒントの有効化 / 無効化」を参照してください。

登録のリプレイ

登録をリプレイすると、登録済みの Web サイトが起動され、登録済みの資格情報を使用して自動的にログオンされます。

▶ 登録済み Web ページをリプレイするには：

- 1 登録済みのダイアログまたは Web サイトを表示します。
- 2 認証します。
- 3 (オプション) 登録の送信が可能であることを示す[パスワードバンク]ダイアログが表示されます。[はい]をクリックして、登録をリプレイします。この手順を次回スキップするには[今後表示しない]を選択します。

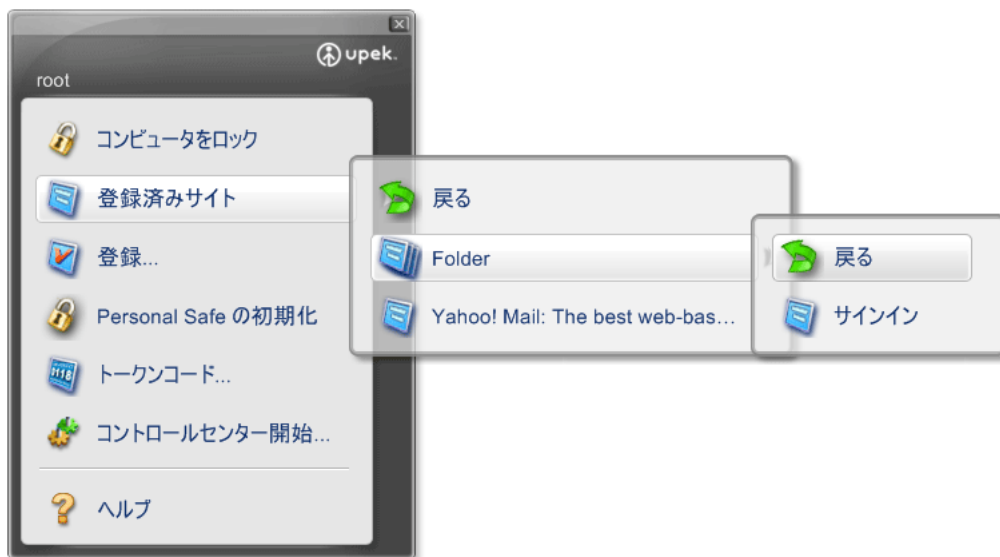


- 4 登録内容がリプレイされます。

▶ 登録済みの Web サイトの起動には、バイオメトリックメニューを使用することもできます。

- 1 指を読み取ってバイオメトリックメニューを表示します。
- 2 [登録済みサイト]を選択します。登録済みサイトの一覧が表示されます。
- 3 表示してリプレイするページを選択します。

- 4 ページが読み込まれ登録がリプレイされると、ブラウザの境界線がマゼンタ色で点滅します。



さまざまなフォーマットによる Web サイトやダイアログの登録

さまざまなフォーマットによる Web サイトの登録

パスワードバンクは個々のフォームを登録します。サイトに複数のフォームが含まれる場合、フォームごとに登録が必要になります。これは、アクティブになっているフォームだけが登録されることを意味します。

登録が既に存在するページにフォーム (1 ページに複数のフォーム) を登録するには、**Shift** キーを押しながら指を読み取り、バイオメトリックメニューを表示します (ページが既に登録されている場合は、**Shift** キーを押さずにセンサーで指を読み取ると、既存の登録がリプレイされます)。

- アクティブなフォームが登録されます。
- アクティブなフォームが存在しない場合、*Internet Explorer 5.5* 以上を使用していれば、ユーザーは登録するフォームを選択するよう要求されます。
- 上記以外の場合、処理は行われません。

サンプルシナリオ：

ページには登録が存在しないものとします。このページにフォーム A とフォーム B が存在します。

- A. フォーム A への入力完了し、このフォームはまだアクティブな状態にあります。センサーで指紋をスキャンします。フォーム A が登録されます。
- B. フォーム A への入力完了したので、フォーム B に移動し、フォーム B がアクティブになりました。センサーで指紋をスキャンします。フォーム B が登録されます (ただし中身は空です)。
- C. フォーム A への入力完了し、フォームの外側をクリックしたので、どのフォームもアクティブではなくなりました。ブラウザは Internet Explorer 5.5 以上を使用しています。センサーで指紋をスキャンします。登録するフォームを選択するよう要求されます。
- D. フォーム A への入力完了し、フォームの外側をクリックしたので、どのフォームもアクティブではなくなりました。ブラウザは Internet Explorer の初期のバージョンを使用しています。処理は行われません。

さまざまなフォームでの Web サイト登録のリプレイ :

ページをバイオメトリックメニューの「登録済みサイト」から表示すると、既存の登録が自動的にリプレイされます。手動でページを表示し、登録をリプレイしたい場合は、指紋をセンサーでスキャンします。

- 既存のフォームの総数に関係なく、ページの登録が 1 つしかない場合は、その登録がリプレイされます。
- 複数の登録済みフォームがあり、登録済みフォームのうち 1 つがアクティブな場合、そのフォームがリプレイされます。
- アクティブなフォームがない場合、このページの既存の登録がすべてリプレイ候補として提示されます。

複雑なダイアログの登録とリプレイ

パスワードバンクは主に、各種アプリケーションにログインするためのダイアログなどの、ユーザー名とパスワードフィールドを含む簡単なダイアログを対象としています。

これよりも複雑なダイアログは、サポートされていません。テキストフィールドとパスワードフィールドはいつでも登録可能です。登録では、非表示、無効、または最小化されていないコントロールが保存されます。標準の Windows コントロール (システムダイアログなど) を使用しているアプリケーションのラジオボタン、チェックボックス、コンボボックス、およびリストボックス内の選択項目が登録されます。登録されたすべての情報は、パスワードの変更を要求された場合などに編集可能です。

ページが複数あるダイアログでは、問題が発生する場合があります。場合によっては、すべてのページが 1 つにまとめて登録される可能性があります。パスワードバンクでは、使用前にコントロールが作成されておらず、コントロールを描画するだけのダイアログは正常に処理されません。一般的な例として、Microsoft Office の一部のダイアログが挙げられます。

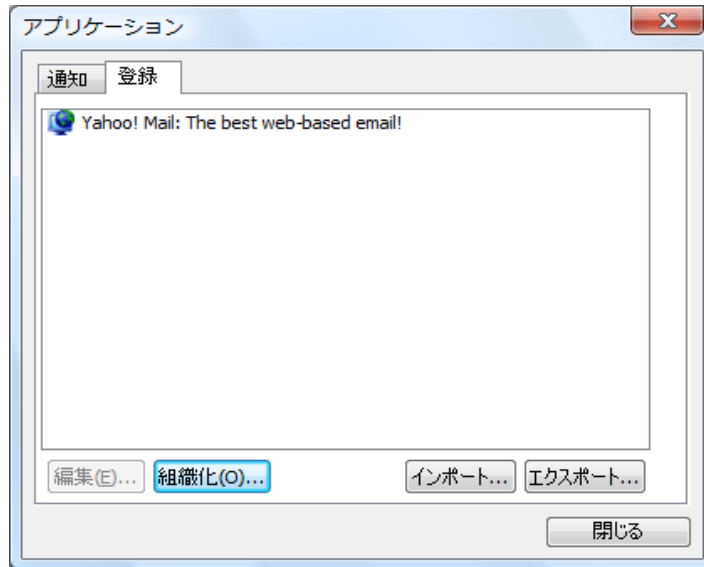
登録済みのダイアログをリプレイするとき、一部のコントロールの変更によりユーザー応答が必要な操作が呼び出される場合、パスワードバンクはダイアログの処理を中断して待機し、操作が終了してからリプレイを完了します。

登録の管理

既存の登録を編集することに役立ちます。たとえば、会社のメールボックスが変更され、登録を更新したい場合などです。また、登録を削除したり、リプレイされる登録の自動送信を有効または無効にしたりすることができます。別のコンピュータで使用するために登録をエクスポートできます。エクスポートされた登録は拡張子 .pb のファイルになり、あとからインポートすることができます。登録をフォルダに整理する場合、このダイアログタブでも行うことができます。

▶ 登録を管理するには：

- 1 [スタート]- [プログラム]- [**Protector Suite QL**]- [コントロールセンター] を選択します。
指を読み取ってバイオメトリックメニューを表示し、[コントロールセンター] を選択します。
- 2 [アプリケーション]- [パスワードバンク] を選択します。認証を要求されます。



3 [登録] タブを選択します。

4 使用する登録を選択します。

- [編集...] ボタンをクリックして保存された登録の詳細を変更します(ユーザー名またはパスワードを変更したので、既存の登録に反映したい場合など)。
- [フォームの自動送信] チェックボックスは登録のリプレイ後のフォームの自動送信を制御します。オンにした場合は、認証した後で自動的に登録がリプレイされます。オフにした場合は、リプレイの実行を確認するダイアログが表示されます。これは、登録したダイアログまたはサイトにアクセスするたびに表示されます。

- [組織化...] ボタンをクリックして登録をフォルダに整理、登録を一覧で上下に移動、およびフォルダの作成または削除を行います。バイオメトリックメニューの Web ショートカットに同様の構造が表示されます。

- [エクスポート...] ボタンをクリックして、別のコンピュータでの使用などのために登録をエクスポートします。エクスポートする登録を選択するか、既存のすべての登録を自動的にエクスポートします。登録の選択を追加するには、Ctrl または Shift を押しながら、登録を選択します。エクスポート先ファイルを選択し、パスワードを入力します。このパスワードはこれらの登録をインポートする際に使用されます。パスワードバンクファイルのファイル拡張子は.pb です。

・ [インポート] ボタンをクリックしてパスワードバンクファイルから登録をインポートします。インポートする .pb ファイルを選択します。既存の登録をすべてインポートした登録と置換するか、インポートした登録を追加することができます。同じ名前の登録を再び追加すると、古い登録とインポートされる登録の両方が維持されるように自動的に後者がリネームされます。エクスポート時に作成したパスワードを入力します。

5 [OK] をクリックして完了します。

パスワードバンクのヒントの有効化 / 無効化

パスワードバンクでは、ダイアログの登録、ダイアログのリプレイなどの操作が可能な場合に、ユーザーにヒントが表示されます。これらのヒントは [コントロールセンター] - [アプリケーション] - [パスワードバンク] ダイアログで有効化 / 無効化できます。ユーザーが Windows にユーザー名とパスワードを使用してログインしている場合、ヒントは指紋認証が正しく実行されるまで有効になりません。

▶ ヒントの有効 / 無効を切り替えるには

1 [スタート] - [プログラム] - [**Protector Suite QL**] - [コントロールセンター] を選択します。

指を読み取ってバイオメトリックメニューを表示し、[コントロールセンター] を選択します。

2 [アプリケーション] - [パスワードバンク] を選択します。認証を要求されます。

3 [通知] を選択します。

4 表示するヒントを選択します。

- ・ 登録がリプレイされる場合に通知する - 登録のリプレイが開始されることを通知します。この通知は、同じフォームまたはダイアログの登録をさらに作成したい場合や、既に入力したデータを上書きしたくない場合に便利です。

- ・ 登録が作成された後で通知する - 登録が正しく作成されたことを通知します。

- ・ パスワードフィールドが編集される場合に通知する - パスワードフィールドが読み取り可能なフォームに表示されることを通知します。

- フォームデータを記憶するかどうかを確認する - (Web ページまたはダイアログ上の) フォームの送信後にパスワードバンク登録を求めるダイアログを有効化/無効化します。
- ダイアログがリプレイ可能な場合に通知する - 登録のリプレイが可能なことを通知します。
- ダイアログが登録に適している場合に通知する - ダイアログに登録可能なパスワードフィールドが含まれていることを通知します。
- Web サイトがリプレイ可能な場合に通知する - 登録のリプレイが可能なことを通知します。
- Web サイトが登録に適している場合に通知する - ページに登録可能なパスワードフィールドが含まれていることを通知します。

アプリケーションランチャー

アプリケーションランチャーは Protector Suite QL のオプション機能です。

インストールすると、登録済みのアプリケーションおよびファイルを指をセンサーで読み取るだけで開始することができます。デスクトップやファイルなどからアプリケーションのショートカットをドラッグアンドドロップ（または参照）すると、割り当て済みの指を次回センサーでスキャンしたときにそのアプリケーションやファイルが起動します（たとえば、デスクトップにある "document.doc" というファイルをドラッグアンドドロップすると、割り当て済みの指を次回スキャンしたときにそのファイルが Word で開きます）。

バイオメトリックメニューの表示用に確保するため、登録済みの指のうち 1 本は割り当てずに残しておきます。アプリケーションの起動で使える指の本数は、登録済みの指の本数 - 1 となります。

アプリケーションの起動を無効にしてバイオメトリックメニューを起動するには、Shift キーを押しながら指を読み取ります。

▶ 登録した指とアプリケーションを関連付けるには：

- 1 [スタート]- [プログラム]- [**Protector Suite QL**]- [コントロールセンター] を選択します。
指を読み取ってバイオメトリックメニューを表示し、[コントロールセンター] を選択します。
- 2 [アプリケーション]- [アプリケーションランチャー] を選択します。
認証を要求されます。

- 3 両手を示すダイアログが表示されます。登録したそれぞれの指の上にはボタンがあります。



- 4 アプリケーションまたはファイルをドラッグアンドドロップします。
[アプリケーション] ダイアログが開くので、必要であれば情報を変更したり、オプションとしてアプリケーションパラメータを入力します(例は以下を参照)。[OK] をクリックします。

または

指の上のボタンをクリックします。[アプリケーション] ダイアログが開きます。

アプリケーションのタイトルを入力します。

アプリケーション行の右側のボタンをクリックして、起動するファイルを参照します。任意の実行可能ファイル(`explorer.exe` など)を参照できます。

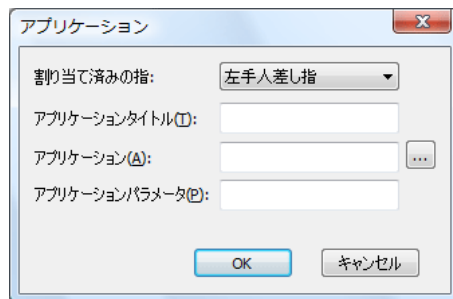
オプションで、[アプリケーションパラメータ] フィールドに追加のパラメータを入力できます。不明な場合は、このフィールドを空白のままにします。アプリケーションパラメータの例は、以下を参照してください。

- 5 [OK] をクリックします。

関連付けが作成されました。次に認証する(センサーで指を読み取る)と、選択したアプリケーションが起動されます。

アプリケーションパラメータの例

- Web サイトは、Internet Explorer などの Web ブラウザを起動すると開くことができます。アプリケーションパラメータフィールドに Web サイトのアドレス (www.upek.com など) を入力すると、認証 (割り当てた指をスキャン) してブラウザを起動するたびに Web サイトが起動します。



- ファイルは、Microsoft Word ドキュメントなどのアプリケーションによって開くことができます。ファイルへのパスを、"C:\Documents and Settings\your.account\My Documents\document.doc" のように引用符で囲んで入力します。指をスキャンするたびに、document.doc というファイルが word で開きます。1 つのアプリケーションに対して複数のパラメータを使用できます。

▶ 指とアプリケーションの関連付けを削除するには

- 1 [スタート]- [プログラム]- [**Protector Suite QL**]- [コントロールセンター] を選択します。
指を読み取ってバイオメトリックメニューを表示し、[コントロールセンター] を選択します。
- 2 [アプリケーション]- [アプリケーションランチャー] を選択します。
認証を要求されます。
- 3 割り当て済みの指の上にあるボタンのアプリケーションアイコンをクリックします。
- 4 [削除...] をクリックします。
- 5 [はい] をクリックして関連付けの削除を確認します。この指は別のアプリケーションで使用できるようになりました。

▶ 指紋とアプリケーションの組み合わせを編集するには

- 1 [スタート]- [プログラム]- [**Protector Suite QL**]-[コントロールセンター] を選択します。
指を読み取ってバイオメトリックメニューを表示し、[コントロールセンター] を選択します。
- 2 [アプリケーション]- [アプリケーションランチャー] を選択します。
認証を要求されます。
- 3 割り当て済みの指の上にあるボタンのアプリケーションアイコンをクリックします。
- 4 必要な変更を加えます。
- 5 [OK] をクリックします。

File Safe

File Safe は、Protector Suite QL のオプションの機能です。

File Safe を使用すると、ファイルをハードドライブ上の暗号化アーカイブに格納できます。暗号化アーカイブにはファイルまたはフォルダを含めることができ、このアーカイブは、指紋認証と、アーカイブを作成するときに設定した場合には File Safe バックアップパスワードで保護されます。File Safe アーカイブがアンロックされている場合、アーカイブファイルでは標準のファイルと同様の操作（削除、コピー、ファイル名の変更など）を実行できます。ドラッグアンドドロップにも対応しています。アンロックされたアーカイブにファイルをコピーして貼り付けるかドラッグし、再びアーカイブをロックすると、ファイルは暗号化されます。アーカイブ内で1つのファイルだけが暗号化されており、そのファイルがアンロックされている場合、ファイルをクリックして起動できます。また、指紋を登録済みの他のユーザーと暗号化アーカイブを共有することもできます。

ファイルの暗号化

コンピュータにログオンして、ファイルを暗号化アーカイブに追加します。



メモ：アーカイブを作成する前に指紋を登録する必要があります。登録されていない場合、ユーザーが選択されていないという警告が表示されます。指紋の登録方法については、「指紋の登録」を参照してください。

▶ 新しい File Safe アーカイブにファイルまたはフォルダを追加するには：

- 1 Windows エクスプローラまたはその他の Windows ダイアログを使用して、暗号化するファイルまたはフォルダを表示します。
- 2 ファイルおよび/またはフォルダを選択（マウスと Shift または Ctrl キーを使用）し、右クリックしてコンテキストメニューを表示します。
- 3 [新しい暗号化アーカイブに追加] を選択します。



- 4 次の操作を求めるダイアログが表示されます。
 - ・ 保存先となるフォルダを選択します([...] をクリックして参照し、フォルダを選択します)。
 - ・ パスワードを選択します。詳細については以下の説明を参照してください。
 - ・ [詳細>>] をクリックし、暗号化ファイルにアクセスできるユーザーを選択します。
 - ・ [OK] をクリックします。認証を要求されます。
- 5 ファイルが暗号化されたら、元のファイルの取り扱いを選択するよう求めるダイアログが表示されます。
 - ・ [元のファイルを維持] を選択すると、元のファイルは削除されず、暗号化アーカイブに保存されると同時に、暗号化されないまま元の場所にも残ります。
 - ・ [元のファイルを削除] を選択すると、元のファイルは削除され、ファイルはアーカイブ内に暗号化された形式でのみ維持されます。
 - ・ 削除するファイルをランダムな内容で上書きしてから削除するには、[ファイルをワイプしてから削除する] チェック ボックスを選択します。これにより、削除したファイルが回復されるのを防ぐことができます。
- 6 暗号化アーカイブが作成されました。アーカイブの拡張子は *.uea、または暗号化されたファイルが1 つだけの場合は *.ueaf です。

パスワードのタイプ：

- ・ [バックアップパスワードを使用しない] を選択すると、アーカイブは指紋のみで保護された状態になります。指紋認証ができない場合(指のケガ、デバイスの問題など)、File Safe アーカイブに保存されたファイルにアクセスする方法はありません。
- ・ [グローバルFile Safe バックアップパスワードを使用する] を選択すると、グローバルパスワード、つまりすべてのアーカイブに共通のバックアップパスワードが設定されます。これは、アーカイブを作成するたびに異なるパスワードを使用したくない場合に役立ちます。まだグローバルバックアップパスワードを設定していない場合、このオプションは灰色表示されます。グローバルバックアップパスワードを設定または変更する方法については、48ページの「File Safe アーカイブの管理」を参照してください。
- ・ [以下のバックアップパスワードを使用する] を選択すると、現在のFile Safe アーカイブに対して新しいパスワードを作成できます。

指紋認証ができない場合(指のケガ、デバイスの問題など)、アーカイブをアンロックできなくなるので、バックアップパスワードの使用をお勧めします。8文字以上の長さで英数字以外の文字を含むなど、強力なパスワードを使用してください。

指紋認証が使用できなくなった場合には、バックアップパスワードを要求するダイアログが表示されます。このダイアログを強制的に表示し、指のスキャンを求めるダイアログを閉じることで指紋認証をスキップできます。



メモ：バックアップパスワードを設定せずに登録済みの指紋を削除した場合、ロックされたFile Safe アーカイブを開けなくなります。指紋を削除する前にFile Safe アーカイブをアンロックしてファイルを移動するか、またはバックアップパスワードを設定してください。

▶ 既存のFile Safe アーカイブにファイルまたはフォルダを追加するには：

- 1 Windows エクスプローラまたはその他のWindows ダイアログを使用して、暗号化するファイルまたはフォルダを表示します。
- 2 ファイルおよび/ またはフォルダを選択(マウスとShift またはCtrl キーを使用) し、右クリックしてコンテキストメニューを表示します。
- 3 [既存の暗号化アーカイブに追加] を選択します。

- 4 参照してファイルを保存するアーカイブを選択します(拡張子 .uea のファイル)。
- 5 [開く] を選択します。
- 6 認証を要求されます。
- 7 ファイルが暗号化されたら、元のファイルの取り扱いを選択するよう求めるダイアログが表示されます。
 - ・ [元のファイルを維持] を選択すると、元のファイルは削除されず、暗号化アーカイブに保存されると同時に、暗号化されないまま元の場所にも残ります。
 - ・ [元のファイルを削除] を選択すると、元のファイルは削除され、ファイルはアーカイブ内に暗号化された形式でのみ維持されます。
 - ・ 削除するファイルをランダムな内容で上書きしてから削除するには、[ファイルをワイプしてから削除する] チェック ボックスを選択します。これにより、削除したファイルが回復されるのを防ぐことができます。
- 8 ファイルが暗号化された **File Safe** アーカイブに追加されます。

File Safe アーカイブのロックとアンロック

コンピュータにログオンして、暗号化 File Safe アーカイブをロックまたはアンロックします。

File Safe アーカイブがアンロックされている場合、アーカイブファイルでは標準のファイルと同様の操作(削除、コピー、ファイル名の変更など)を実行できます。ドラッグアンドドロップにも対応しています。アーカイブ内で1つのファイルだけが暗号化されており、そのファイルがアンロックされている場合、ファイルをクリックして起動できます。

► File Safe アーカイブをして開くには：

- 1 開くアーカイブファイル(*.uea または *.ueaf) を選択し、右クリックしてコンテキストメニューを表示します。
- 2 [開く] または [アンロック] を選択します。



- 3 指を読み取るか認証するためのバックアップパスワードを入力して認証するよう求められます(これはアーカイブの作成時に設定したオプションによって異なります)。
- 4 アーカイブがアンロックされます。アーカイブファイルで標準のファイルと同様の操作(削除、コピー、ファイル名の変更など)を実行できます。または、単独のファイルアーカイブ(*.ueaf)の場合は、アーカイブ内のファイルが起動します(テキストドキュメントが開きます)。



メモ：アーカイブをダブルクリックすると、

- ・ ロックされている場合は、認証を要求され、認証後にアーカイブフォルダがアンロックされて開きます。
- ・ アーカイブがすでにアンロックされている場合は、アーカイブフォルダが開きます。
- ・ 暗号化されたファイルが1つしかなく、そのファイルがロックされている場合は、認証するよう求められ、ファイルが起動されます。
- ・ 暗号化されたファイルが1つしかなく、そのファイルがアンロックされている場合は、ファイルが起動されます。

▶ **File Safe アーカイブをロックするには：**

- 1 アンロックされたアーカイブファイル(*.uea または *.ueaf) を選択し、右クリックしてコンテキストメニューを表示します。
- 2 [ロック] を選択します。ここでは認証の必要はありません。
- 3 アーカイブがロックされました。

▶ **すべての File Safe アーカイブをするには：**

- 1 指をセンサーでスキャンしてバイオメトリックメニューを表示します。
- 2 メニューから [すべてのアーカイブをロック] を選択します。ここでは認証の必要はありません。
- 3 すべてのアンロックされたアーカイブがロックされました。

File Safe アーカイブのファイルの解読

コンピュータにログオンして、File Safe アーカイブからファイルまたはフォルダを解読します。File Safe 全体を選択してその中のすべてのファイルを解読するか、アーカイブ内のファイルを個別に選択して、それらを解読することができます。

▶ **File Safe アーカイブ内のすべてのファイルまたはフォルダを一度に解読するには：**

- 1 解読するアーカイブファイル(*.uea または *.ueaf) を選択し、右クリックしてコンテキストメニューを表示します。
- 2 [解読先を指定...] を選択します。
- 3 解読したファイルの保存先となる場所を選択します。
- 4 認証を要求されます。(これはアーカイブの作成時に設定したオプションによって異なります)。
- 5 ファイルが保存先の場所に解読されます。

ファイルを再び暗号化するか、新しいアーカイブを作成するには、40 ページの「ファイルの暗号化」を参照してください。


▶ **File Safe アーカイブから選択したファイルまたはフォルダを解読するには：**

- 1 解読するアーカイブファイル(*.uea) を選択して、開きます(ダブルクリックします。ロックされている場合は認証します)。

- 2 マウスおよびShift またはCtrl キーを使用して、解読するファイルを選択し、右クリックしてコンテキストメニューを表示します。
- 3 [解読先を指定...] を選択します。
- 4 解読したファイルの保存先となる場所を選択します。
- 5 アーカイブ内の元のファイルの取り扱いを選択します。元のファイルを削除 - 解読したファイルはアーカイブから削除されます。
元のファイルを維持 - 暗号化アーカイブ内のファイルは維持されます。
- 6 ファイルが保存先の場所に解読されます。
ファイルを再び暗号化するか、新しいアーカイブを作成するには、40 ページの「ファイルの暗号化」を参照してください。

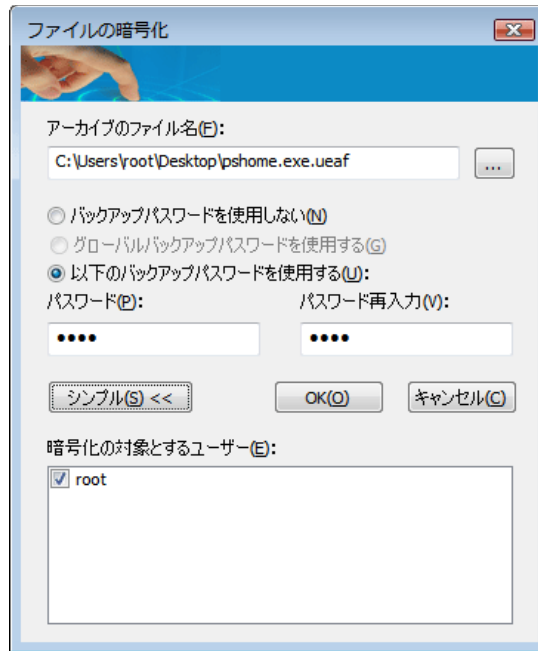
File Safe アーカイブへのアクセスの共有

ユーザーは File Safe アーカイブを共有できます。アーカイブを作成するときには、登録された指紋を使用して共有アーカイブにアクセスできるユーザーを選択できます。また、後から File Safe のプロパティでユーザーにアクセスを許可したり、ユーザーのアクセスを拒否したりすることもできます。アーカイブには、(アーカイブの共有権限を持つユーザーだけでなく)すべてのユーザーが有効なバックアップパスワードを使用してアクセスできます。

 **重要：**アーカイブを共有するすべてのユーザーが、同一のアクセス権限(ファイルの削除および追加、アーカイブにアクセスするためのパスワードの変更、他のユーザーによるアクセスの拒否など)を持ちます。

▶ アーカイブ作成時にユーザーのアクセスを許可するには：

- 1 暗号化するファイルを右クリックし、メニューから [新しい暗号化アーカイブに追加] を選択します。
- 2 バックアップパスワードを選択します。すべてのユーザーが同じバックアップパスワードを使用します。
- 3 [詳細>>] をクリックします。



- 4 登録済みユーザーの一覧を示した [暗号化の対象とするユーザー] ウィンドウが表示されます。アーカイブを共有するユーザーをクリックします。
- 5 [OK] をクリックします。選択されたすべてのユーザーは、指をセンサーでスキャンすることによってアーカイブをアンロックできます。

► **File Safe** プロパティでユーザーのアクセスを許可または拒否するには：

- 1 アーカイブファイル (*.uea または *.ueaf) を選択します。
- 2 右クリックしてコンテキストメニューを表示し、[プロパティ] を選択します。
- 3 アーカイブがロックされている場合は、[アンロック] をクリックしてプロパティオプションを操作できるようにします。指紋またはバックアップパスワードで認証します。
- 4 ここで、アーカイブのパスワードを変更できます。すべてのユーザーのパスワードが変更されます。[アクセスを許可するユーザー] ウィンドウで、アクセスを許可または拒否するユーザーを選択します。選択されたすべてのユーザーは、指をセンサーでスキャンすることによってアーカイブをアンロックできます。
- 5 アーカイブをロックする場合は、[ロック] をクリックします。

グローバルバックアップパスワードを使用するには、アーカイブを作成したユーザーの [アプリケーション] - [File Safe] ダイアログのパスワードを設定します。このパスワードを変更しても、作成済みの File Safe アーカイブには影響しません。

他のユーザーが自分の File Safe にアクセスできるようにする場合は、アーカイブファイルをコンピュータ上の共有フォルダに置く必要があります。



メモ：ログオンしているユーザーがアーカイブをアンロックし、ログアウトせずに、またはコンピュータを再起動せずにユーザーが切り替わった場合、アクセスが共有されていても、次にログオンしたユーザーはアーカイブにアクセスできません。アーカイブを共有する場合は、ユーザーを切り替える前にアーカイブをロックしてください。

File Safe アーカイブの管理

► File Safe アーカイブのプロパティにアクセスするには：


- 1 アーカイブファイル (*.uea または *.ueaf) を選択します。右クリックしてコンテキストメニューを表示し、[プロパティ] を選択します。
- 2 [File Safe] タブを選択します。
- 3 アーカイブがロックされている場合は、[アンロック] をクリックしてプロパティオプションを操作できるようにします。指紋またはバックアップパスワードで認証します。
ここで、アーカイブで使用するパスワードのタイプを変更したり、他のユーザーのアクセスを許可または拒否したりできます。
- 4 アーカイブを再びロックするには [ロック] をクリックします。



メモ：アーカイブをアンロックするにはプロパティにアクセスする必要があります。アーカイブをアンロックするには、[プロパティ] の [アンロック] をクリックするか、アーカイブがアンロック状態とロック状態のどちらになっているかを確認します。

► **File Safe のバックアップパスワードを変更するには：**

- 1 アーカイブファイル (*.uea または *.ueaf) を選択します。右クリックしてコンテキストメニューを表示し、**[プロパティ]** を選択します。
- 2 **[File Safe]** タブを選択します。
- 3 アーカイブがロックされている場合は、**[アンロック]** をクリックしてプロパティオプションを操作できるようにします。指紋またはバックアップパスワードで認証します。
- 4 次のオプションを選択します。
 - ・ **[バックアップパスワードを消去]** を選択してバックアップパスワードを削除します。または
 - ・ **[バックアップパスワードを設定]** を選択して新しいパスワードを設定するか、すでに設定されている場合は変更します。以下を選択します。
 - ・ **[グローバル File Safe バックアップパスワードを使用する]** を選択して、バックアップパスワードを使用します。このバックアップパスワードは、グローバルバックアップパスワードによる保護を選択したすべてのアーカイブに共通です。このパスワードは **File Safe** ダイアログで変更可能です。
 - ・ **[以下のバックアップパスワードを使用する]** を選択して、アーカイブの新しいパスワードを作成します。

 **重要：**アーカイブのバックアップパスワードを変更すると、すべてのユーザーに対して変更されます。アーカイブへのアクセス権があるすべてのユーザーは、パスワードを変更することができます。

► **File Safe でグローバルバックアップパスワードを変更するには：**

- 1 **[スタート]**- **[プログラム]**- **[Protector Suite QL]** - **[コントロールセンター]** を選択します。

指を読み取ってバイオメトリックメニューを表示し、**[コントロールセンター]** を選択します。
- 2 **[アプリケーション]**- **[File Safe]** を選択します。認証を要求されます。

- 3 ここで、グローバルバックアップパスワードを変更または設定できます。このパスワードは、グローバルバックアップパスワードで保護するように選択したすべてのアーカイブに共通です(アーカイブの作成時に選択するか、アーカイブの [プロパティ] で設定したもの)。
- このパスワードを変更しても、すでに作成済みの **File Safe** アーカイブには影響しません。現在ロックされているアーカイブは、そのまま古いパスワードで保護されます。

Personal Safe

Personal Safe を使用すると、非表示のフォルダ内にあるファイルを暗号化できます。フォルダは、デスクトップ上またはマイ コンピュータ内に表示できます。このフォルダは、コンピュータを共有している他のユーザーには表示されません。**Personal Safe** フォルダを使用する前に、最初に初期化する必要があります(下記参照)。

▶ **Personal Safe** を初期化するには

- 1 [スタート]- [プログラム]- [**Protector Suite QL**]-[コントロールセンター] を選択します。
指を読み取ってバイオメトリックメニューを表示し、[コントロールセンター] を選択します。
- 2 [アプリケーション]- [**File Safe**] を選択します。認証を要求されます。
- 3 [**Personal Safe**] タブを選択します。
- 4 **Personal Safe** フォルダを表示する場所をオン/ オフします。
- 5 [初期化] ボタンをクリックします。
- 6 バックアップパスワードを設定します。
- 7 [OK] をクリックします。

Personal Safe を使用する準備ができました。デスクトップ上またはマイ コンピュータ内あるいは両方に表示することができます(**Personal Safe** を表示または非表示にする方法については下記を参照してください)。



ヒント：代わりに、Personal Safe アイコンから Personal Safe の初期化を実行することもできます。Personal Safe アイコン(たとえば、デスクトップ上)を右クリックして[初期化]をクリックするか、または指を読み取ってバイオメトリックメニューを表示し、[初期化]を選択します。

▶ Personal Safe を非表示 / 表示するには

- 1 [スタート]- [プログラム]- [**Protector Suite QL**]-[コントロールセンター]を選択します。
指を読み取ってバイオメトリックメニューを表示し、[コントロールセンター]を選択します。
- 2 [アプリケーション]- [File Safe]を選択します。認証を要求されます。
- 3 [**Personal Safe**] タブを選択します。
- 4 Personal Safe フォルダを表示する場所をオン/ オフします。デスクトップ上またはマイ コンピュータ フォルダ内あるいは両方同時に表示することができます。両方の場所に表示した場合でも、同じフォルダのままです。

▶ バックアップパスワードを設定 / 変更するには

- 1 [スタート]- [プログラム]- [**Protector Suite QL**]-[コントロールセンター]を選択します。
指を読み取ってバイオメトリックメニューを表示し、[コントロールセンター]を選択します。
- 2 [アプリケーション]- [File Safe]を選択します。認証を要求されます。
- 3 [**Personal Safe**] タブを選択します。
- 4 [**Personal safe のバックアップパスワード**] の下のテキストフィールドで、パスワードを入力するか変更します(確認のため2 度行います)。
- 5 プロンプトが表示されたら認証します(指を読み取るか、指を読み取ってパスワードを入力します)。

ファイルを追加または削除する操作は、File Safe と同様です。Personal Safe フォルダがアンロックされている場合、標準のフォルダと同様の操作(削除、コピー、ファイル名の変更など)を実行できます。ファイルを暗号化するには、1 つ以上のファイル(またはフォルダ)を選択して、右クリックし、コンテキストメニューを表示します。[**Personal Safe に追加 (P)**]を選択します。ドラッグア

ンドドロップにも対応しています。フォルダをロック/アンロックするには、フォルダを選択して右クリックし、コンテキストメニューを表示して、[ロック]または[アンロック]を選択します。



メモ：Personal Safe およびそのコンテンツをすべて削除するには、[コントロールセンター]に移動して、[アプリケーション]→[File Safe]を選択し、[Personal Safe] タブをクリックします。[削除およびリセット (d)] ボタンをクリックします。Personal Safe のすべてのデータが削除されます。後で Personal Safe を使用する場合は、再度初期化する必要があります。

セキュリティトークン

トークンコードとは、オンラインリソースにアクセスするために使用されるワンタイムパスワードです。**Protector Suite QL** では、指紋センサーで指を読み取ったあと、トークンコードの生成とフォームの自動入力が可能です。

トークンコードの生成は、指紋のハードウェアチップセットまたはソフトウェアにより実行可能です。ハードウェアベースの生成は指紋センサーの種類に依存します。すべてのセンサーがサポートされるわけではないことに注意してください。

この機能を使用するには、トークンコードに対応しているプロバイダに登録している必要があります。



RSA セキュア ID トークンのインポート

▶ トークンコードを入手するには

- 1 [スタート]- [プログラム]- [**Protector Suite QL**]-[コントロールセンター] を選択します。

または

指を読み取ってバイオメトリックメニューを表示し、[コントロールセンター] を選択します。

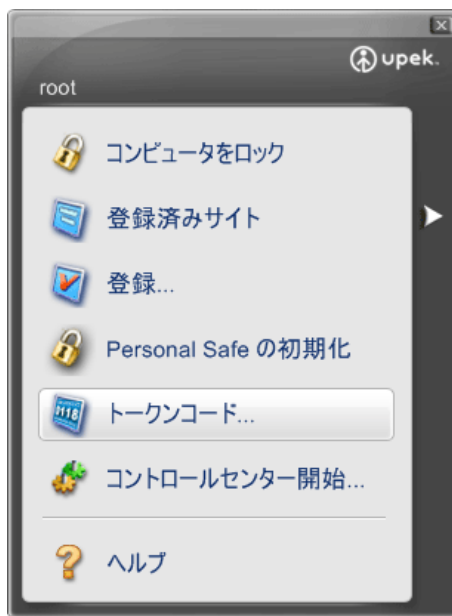
- 2 [アプリケーション]- [セキュリティトークン] を選択し、プロンプトが表示されたら認証します(指をスキャン、または指をスキャンしてパスワードを入力など)。
- 3 [セキュリティトークン] タブが表示されます。[追加] ボタンをクリックします。
- 4 [**RSA セキュア ID トークンのインポート**] タブが表示されます。
- 5 トークンの名前を入力し、[次へ] をクリックします。
次のダイアログで、プロバイダから受け取った **SecureID** ファイル(*.sdtid) を参照します。プロンプトが表示されたら、ファイルパスワードを入力し [次へ] をクリックします。
- 6 セキュリティトークンが有効になります。有効化が完了したら、[次へ] をクリックします。
- 7 トークンが用意できたら、[完了] ボタンをクリックします。

トークンコードジェネレータ

パスワードバンクアプリケーション(以下を参照)にトークンを登録するか、トークンコードジェネレータを使用してトークンコードを生成することができます。トークンコードジェネレータは、セキュリティトークンを選択し、そのトークンを使用してトークンコードを生成することができる、簡易ダイアログです。トークンコードは、クリップボードにコピーし、必要な場所に貼り付けることができます。

▶ トークンコードを生成するには：

- 1 指をセンサーでスキャンしてバイオメトリックメニューを表示し、メニューから[トークンコード]を選択します。



- 2 使用したいトークンを選択します。トークンが1つしかない場合は、トークンコードは自動的に生成されます。



生成されたトークンコードの有効期間を示すダイアログが表示されます。トークンコードは時間ベースであり、所定の時間(通常は1分)の経過後に失効します。

サービスプロバイダの要件に従って、トークンコードをPIN付きまたはPINなしのどちらで生成するかを選択します。

サービスプロバイダが別のトークンコードを必要とする場合(たとえば、無効なログオンデータの入力後に認証を確認するためなど)、[次へ]を選択します。

- 3 [閉じる] ボタンをクリックします。

セキュリティトークンの管理

ダイアログに表示される各セキュリティトークンの名前を編集したり、トークンを削除することができます。

▶ トークンを編集するには：

- 1 [スタート]- [プログラム]- [**Protector Suite QL**]- [コントロールセンター] を選択します。
または
指を読み取ってバイオメトリックメニューを表示し、[コントロールセンター] を選択します。
- 2 [アプリケーション]- [セキュリティトークン] を選択し、プロンプトが表示されたら認証します(指をスキャン、または指をスキャンしてパスワードを入力など)。
- 3 [セキュリティトークン] タブが表示されます。編集するトークンを選択します。
- 4 [変更...] ボタンをクリックしてトークンの新しい名前を入力します。
または
[削除...] ボタンをクリックします。トークンが削除されると、ユーザーパスポート内のデータが削除されます。
- 5 [OK] をクリックして変更を確認し、ダイアログを閉じます。

トークンの登録とリプレイ (パスワードバンク使用)

パスワードバンクアプリケーションは、トークンコードが使用される Web ページまたはアプリケーションダイアログを検出することができます。Web サイトまたはアプリケーションを登録したら、パスワードバンクを使用して、センサーで指をスキャンしたときに自動的にトークンコードを含むログオンデータを入力することができます。資格情報は、安全かつ便利な指紋認証により保護されます。

パスワードバンクはパスワードフィールドを含むページを認識し、ページが登録可能であることを示すヒントを表示します。これらのヒントは[パスワードバンク設定]ダイアログでオフにすることができます。34 ページの「パスワードバンクのヒントの有効化/無効化」を参照してください。

▶ パスワードバンクに資格情報を登録するには：

- 1 トークンコードフォームを含む Web ページまたはアプリケーションを表示します。
- 2 センサーで指を読み取ってバイオメトリックメニューを表示します。
- 3 メニューから [登録] を選択します。
- 4 [トークンコード登録ウィザード] が表示されます。 [選択 ...] をクリックして、一覧からセキュリティトークンを選択します。トークンを 1 つだけ使用している場合は、トークンコードが自動的に入力されます。

トークンコード登録ウィザード

トークンコードフォームの登録を作成します。ユーザー ID を入力して、パスワードの生成に使用するトークンを選択してください。これらの情報は、登録プレイのたびに使用されます。

フォーム情報

トークン: RSA 選択...

ユーザーID: test

☐ Webフォームに入力して送信

OK キャンセル

- 5 確認して閉じるには [OK] をクリックします。
- 6 資格情報は登録されているため、次回自動的にリプレイできます。 [Web フォームに入力し送信する] を選択した場合は、アプリケーションにログインされます。

▶ パスワードバンクでトークンコードの登録をリプレイするには：

- 1 登録した Web ページまたはアプリケーションを表示します。
- 2 既存の登録について通知する、パスワードバンクのヒントが表示されます。
- 3 センサーで指を読み取ります。

- 4 (オプション) 登録の送信が可能であることを示す[パスワードバンク]ダイアログが表示されます。[はい]をクリックして登録をリプレイします。この手順を次回スキップするには[今後表示しない]を選択します。
- 5 ブラウザのウィンドウが点滅し、登録がリプレイされログインされます。



メモ：トークンを送信する前にタイムアウトが必要な場合は、[トークンコードタイムアウト]ダイアログが表示されます。登録のリプレイを再度試す前に、示された時間だけ待機してください。

トークンコードの認証に失敗した場合は、次のトークンコードの入力が求められます。パスワードバンクで新しいトークンコードを生成して送信するかどうかをたずねるダイアログが表示されます。生成する場合は[はい]を選択し、キャンセルする場合は[いいえ]を選択し、手動でトークンコードを生成して配置する場合は、トークンコードジェネレータを実行します。



第4章 Protector Suite QL の管理

Protector Suite QL の機能および設定を管理するには、次の3つの方法があります。すなわち、コントロールセンターダイアログ、システムトレイアイコン、および(センサーで指を読み取ったあとに表示される)バイオメトリックメニューからです。この章ではこれらの機能について説明します。

Protector Suite QL の機能は、Windows の [スタート] メニューからもアクセスできます。[スタート] - [プログラム] - [Protector Suite QL] を選択して使用できる機能を一覧表示します。

コントロールセンター

コントロールセンターには、指紋の管理および指紋認証ユーティリティの設定に役立つ機能が複数用意されています。使用できるオプションは、ソフトウェアの状態、使用するハードウェア、およびインストールされているアプリケーションによって異なります。

▶ コントロールセンターを表示するには：

- [スタート]- [プログラム]- [**Protector Suite QL**]- [コントロールセンター] を選択します。
- または、指を読み取ってバイオメトリックメニューを表示し、[コントロールセンター開始...]を選択します。
- トレイアイコンを右クリックし、[コントロールセンター開始...] を選択します。



指紋

ユーザーの指紋を登録、編集または削除できます。パワーオンセキュリティを有効にしている場合、デバイスメモリに格納されている指紋も管理できます。使用できる機能は、インストールされている **Protector Suite QL** のバージョン、指紋センサー、既存パスポート、および現在のユーザーの管理権限によって異なります。



メモ：使用できる機能は、現在のユーザーの管理権限によって異なります。保護モードでは、指紋管理者（ページの「セキュリティモード」を参照）に指名されているユーザーが、すべての登録されているユーザーのパスポートを登録または編集できます。簡易モードでは、登録または編集できるのは自分自身のパスポートのみです。

指紋の登録または編集

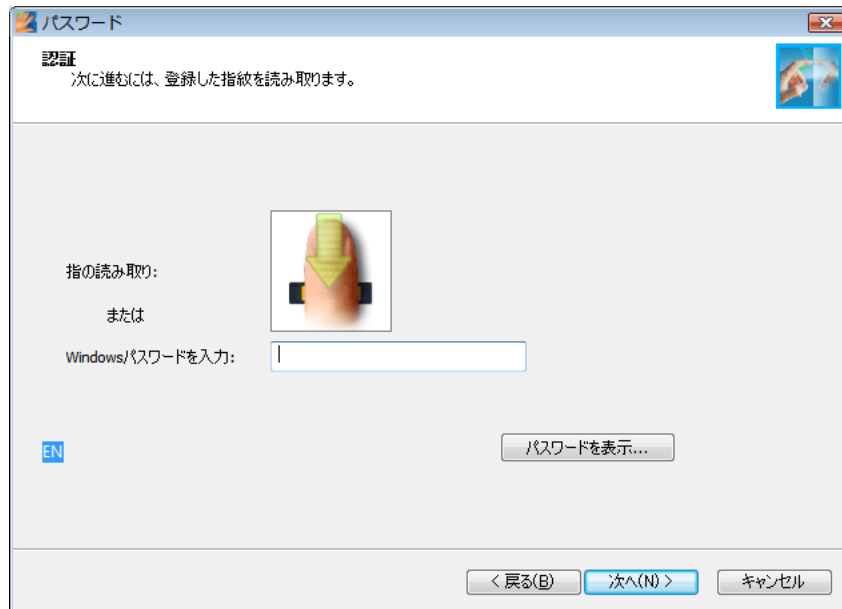
指紋の登録は、ユーザー名、パスワードおよび指紋（元の画像を復元できないように処理されたもの）と、自動生成されたセキュリティキーとの関連付けを作成するプロセスです。すべてのデータはユーザーの指紋パスポートに格納されます。

登録すると、ユーザー名とパスワードを入力する代わりに指紋を使用できます。Windows のユーザー名を変更すると、パスポートは削除されることに注意してください。

▶ パスポートを登録または編集するには（指紋の登録または編集）：

- 1 [スタート]- [プログラム]- [**Protector Suite QL**]- [コントロールセンター] を選択します。
または、指を読み取ってバイオメトリックメニューを表示し、[コントロールセンター開始...] を選択します。
または、トレイアイコンを右クリックし、[コントロールセンター開始...] を選択します。
- 2 [指紋] をクリックします。
- 3 [指紋の登録または編集] をクリックします。
（インストール後、ユーザーをまだ1人も登録していない場合、このセクションには初期化ウィザードしか表示されません。登録タイプを選択すると登録ウィザードが自動的に開始されます）。
または
トレイアイコンで右クリックし、[指紋の編集...] を選択します。

- 4 (オプション) セキュアモード(ページの「セキュリティモード」を参照) では既存のパスポートが一覧表示されます。ユーザーを選択し、[編集] ボタンをクリックして既存ユーザーの指紋を編集するか、[登録] をクリックして新しいユーザーを登録します。
- 5 [登録ウィザード] 画面が表示されます。
- 6 指を指紋センサーでスキャンするか、Windows パスワードを入力し、[次へ] をクリックします。



[マルチファクタ] ダイアログが表示されます。認証方式を選択します。次回認証を求められるとき、選択した方式が必要になります(コンピュータにログイン、Web ページを登録など)。これは登録されているすべての指に適用されます。詳細については、第 3 章、17 ページの [マルチファクタ方式] を参照してください。

- 7 次のいずれかの操作をしてください。
 - ・ 新しい指紋を登録するには：
 - 登録する指を選択し、指の上にあるボックスをクリックします。
 - 選択した指を指紋センサーで読み取ります。1 つの指紋を登録するには、5 つの完全な画像が必要です(詳細な説明はを参照)。第 3 章、14 ページの [指紋の登録]

- ・ 指紋を削除するには：
 - 削除する指を選択し、指の上にあるボックスをクリックします。
 - [OK] をクリックします。
- 8 (オプション) デバイスへの登録が選択され、システム設定でパワーオンセキュリティが有効になっている場合、登録されているすべての指紋はパワーオンセキュリティにも使用されます。
 - 9 (オプション) ハードドライブへの登録が選択され、システム設定でパワーオンセキュリティが有効になっている場合、登録されている指紋はパワーオンセキュリティにも使用されます。
 - 10 デバイスメモリには制限があります。パスポートに登録されている指紋の中に、デバイスのパワーオンセキュリティに割り当てられていないものがある場合(別のデバイスが接続されている場合など)、それぞれの指の上に [パワーオン] ボタンが表示されます。既定では、[パワーオン] ボタンは " 押された " 状態で表示されます。対応する指がパワーオンセキュリティに使用されます。パワーオンセキュリティに指を使用せず、ログオンにのみ使用する場合、[パワーオン] ボタンをクリックして、デバイスメモリから指を削除します。
 - 11 [次へ] をクリックして登録を完了します。

削除

使用できる機能は現在のユーザーの管理者権限によって異なります。保護モードでは(ページの「セキュリティモード」を参照)、指紋管理者に指名されているユーザーのみがユーザーパスポートを削除できます。

▶ 既存のパスポートを削除するには (全ユーザーのデータ)

- 1 [スタート]- [プログラム]- [**Protector Suite QL**]-[コントロールセンター] を選択します。
 または、指を読み取ってバイオメトリックメニューを表示し、[コントロールセンター] を選択します。
 トレイアイコンを右クリックし、[コントロールセンター開始...] を選択します。
- 2 [指紋] → [削除] をクリックします。簡易モードでは、認証してから現在のパスポートの削除を確認します。

セキュアモードでは、既存のパスポートが一覧表示されます。削除するパスポートを選択し、削除を確認してください。

ユーザーパスポートのインポートまたはエクスポート

既存のユーザーデータ (指紋、暗号化キー、ログオン資格情報を含む) は、*.vtp ファイル (パスポートファイル) にエクスポートしたり、指紋認証ユーティリティに再びインポートしたりできます。*.vtp ファイルは、エクスポート時に指定したパスワードを使って暗号化されます。既存ユーザーのパスポートはインポートできません。この場合、最初にユーザーパスポートを削除する必要があります。



ヒント：バックアップ用にパスワードをエクスポートすることをお勧めします。たとえば、今後 Windows のユーザー名を変更し、パスポートを削除した場合に、バックアップをインポートすることができます。

▶ 既存のパスポートをエクスポートするには

- 1 [スタート]- [プログラム]- [**Protector Suite QL**]- [コントロールセンター] を選択します。
または、指を読み取ってバイオメトリックメニューを表示し、[コントロールセンター] を選択します。
または、トレイアイコンを右クリックし、[コントロールセンター開始...] を選択します。
- 2 [指紋] → [ユーザーデータのインポートまたはエクスポート] をクリックします。
保護モードでは、既存のパスポートが一覧表示されます。エクスポートするパスポートを選択し、[エクスポート] をクリックします。
- 3 エクスポート先ファイルを選択します (*.vtp)。
- 4 エクスポートされたデータを保護するパスワードを指定します。
- 5 エクスポートするパスポートに含まれている指を認証します。

▶ パスポートをインポートするには

- 1 [スタート]- [プログラム]- [**Protector Suite QL**]- [コントロールセンター] を選択します。
または、指を読み取ってバイオメトリックメニューを表示し、[コントロールセンター] を選択します。
トレイアイコンを右クリックし、[コントロールセンター開始...] を選択します。
- 2 [指紋] → [ユーザーデータのインポートまたはエクスポート] をクリックします。セキュアモードでは、既存のパスポートが一覧表示されます。[インポート] をクリックします。

- 3 パスポートファイル(*.vtp) を参照します。
- 4 エクスポート時に指定したパスワードを入力します。

アプリケーション

このセクションでは、指紋認証アプリケーションを設定することができます(アプリケーションランチャー?、パスワードバンク、File Safe など)。登録していない場合は、リンクに従い少なくとも 1 つの指紋を登録してください。

アプリケーションランチャー

指紋で起動できるアプリケーションの一覧が表示されます。

バイオメトリックメニューの表示用に、少なくとも 1 つは登録済みの指を未割り当てのままにしておく必要があります。起動できるアプリケーションの最大数は、登録されている指の数から 1 を引いた数になります。たとえば、2 つのアプリケーションを起動する場合には、少なくとも 3 つの指紋を登録する必要があります。

▶ 登録された指紋でアプリケーションを起動するには：

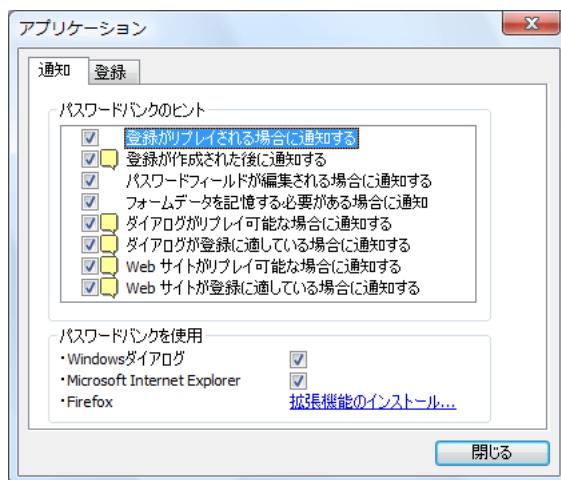
- 1 [追加] ボタンをクリックします。[アプリケーション] ダイアログが開きます。
- 2 登録済みの指のうち、まだアプリケーションに関連付けられていないものを選択します。利用可能な指がない場合は、指紋をさらに登録するよう求めるダイアログが表示されます。
- 3 アプリケーションの名前を入力します。
- 4 起動したいファイルを参照します。任意の実行可能ファイル (Iexplorer.exe など) を参照できます。
- 5 オプションで、[アプリケーションパラメータ] フィールドに追加のパラメータを入力できます(36 ページを参照)。
- 6 [OK] をクリックします。

[アプリケーションランチャー] と [アプリケーションパラメータ] の詳細については、第 3 章、36 ページの [アプリケーションランチャー] を参照してください。

パスワードバンク

このダイアログは2つの部分に分かれています。最初の部分には、パスワードバンクの操作に関してユーザーに表示されるヒントの設定が含まれています。各ヒント説明にヒントを表示するか非表示にするかは、チェックボックスをオン/オフして設定します。

次の部分には、パスワードバンクの使用に関する情報が含まれています。



[Windows ダイアログ] チェックボックスを選択すると、パスワードバンクを使用した標準の Windows アプリケーションの資格情報の保存が有効になります。Internet Explorer での Web 資格情報は常にサポートされます。チェックボックスで、現在のユーザーのブラウザの使用を有効化または無効化します。Firefox ブラウザには、プラグインのインストールが必要です。リンクをクリックしてインストールを開始します。Firefox をデフォルトのブラウザに設定する必要があります。プラグインのインストール後、Firefox をアップグレードすると、パスワードバンクプラグインに互換性がないことが通知され、新しいプラグインが提示されます。新しいプラグインを確認してインストールします。

パスワードバンクの詳細については、第 3 章、27 ページの「パスワードバンク」を参照してください。

登録

このダイアログには、既存のパスワードバンクの登録がすべて表示されます。登録されているページとダイアログの両方が表示されます。一覧から登録を選択し、以下のボタンの 1 つをクリックします。[編集] ボタンで登録を編集する、[組織化 ...] で (バイオメトリックメニューに表示される) 登録の一覧を整

理する、[エクスポート]をクリックして別のコンピュータでの使用やバックアップのために登録をエクスポートする、または[インポート]をクリックしてエクスポートされたファイルから登録をインポートします。

詳細については、第 3 章、32 ページの「登録の管理」を参照してください。

File Safe

暗号化 File Safe アーカイブに格納されているファイルを保護するパスワードを設定または変更できます。このパスワードは、グローバルバックアップパスワードで保護するように設定されているすべてのアーカイブを保護します。指紋認証ができない場合(指のケガ、デバイスの問題など)、File Safe アーカイブに保存されたファイルにアクセスする方法はないので、バックアップパスワードの使用をお勧めします。8 文字以上の長さで英数字以外の文字を含むなど、強力なパスワードを使用してください。



メモ：このパスワードを変更しても、作成済みの File Safe アーカイブには影響しません。

パスワードと File Safe の詳細については、第 3 章、40 ページの「ファイルの暗号化」を参照してください。

セキュリティトークン

このダイアログではセキュリティトークンのインポートを開始します。この機能を利用できるようにするには、セキュリティトークンサービスに対応し、提供しているプロバイダに登録する必要があります。手順ごとのインポートの進め方については、ページの「セキュリティトークン」を参照してください。


設定

Protector Suite QL の設定ダイアログには Protector Suite QL を設定するためのいくつかのオプションが表示されます。ここで説明する「設定」の一部の機能は表示されない場合があります。使用できる機能は、インストールされている Protector Suite QL のバージョンや、現在のユーザーの管理権限によって異なります。

システム設定

システム設定には、すべてのユーザーに共通の設定が含まれています。この設定は管理者しか操作できません。次の機能は、[システム設定] で設定することができます。

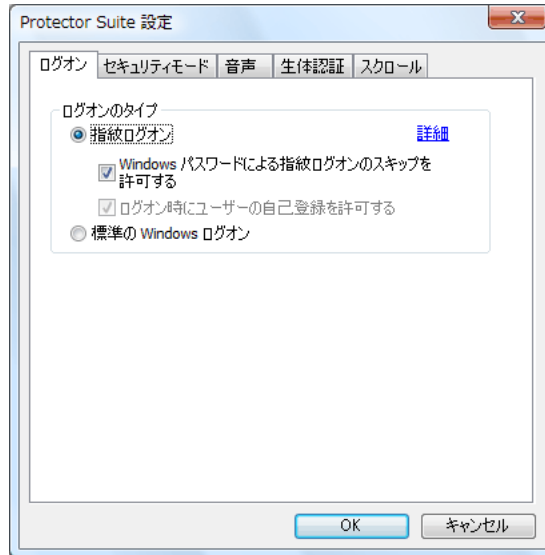
ログオン、セキュリティモード、音声、生体認証、TPM (オプション)、スクロール。

 Windows Vista を使用している場合は、シールドアイコン付きの [編集 ...] ボタンをクリックして、[システム設定] の変更を行うための管理者権限を取得します。Vista の [ユーザーアカウント制御] ダイアログが表示されたら、資格情報を入力してシステムに認証します (または既に管理者としてログインしている場合はプログラムが続行します)。権限昇格が必要でないか不可能である場合は、ボタンは表示されません。

ログオン

管理者のみログオン設定を変更することができます。また、変更内容によってはコンピュータの再起動が必要です。[ログオン] 設定画面では、次の設定が可能です。

- Windows ログオンを指紋保護ログオンと置き換える
- パワーオンセキュリティにより認証済みユーザーが自動的にログオンできるようにする (オプション)
- ユーザーの簡易切り替え機能を有効にする (オプション)。



▶ ログオン設定を変更するには：

- 1 [スタート]- [プログラム]- [**Protector Suite QL**]- [コントロールセンター] を選択します。

または、指を読み取ってバイオメトリックメニューを表示し、[コントロールセンター開始...] を選択します。

または、トレイアイコンを右クリックし、[コントロールセンター開始...] を選択します。

- 2 [設定]- [システム設定設定]- [ログオン] を選択します。
- 3 以下を選択します。

・ **指紋ログオン**


このオプションを選択した場合、コンピュータへの指紋ログオンが可能です。

・**Ctrl+Alt+Del メッセージを表示しない**

Ctrl+Alt+Del メッセージが表示されなくなります(ユーザー名 / ドメイン / パスワードを入力するためのログオンダイアログは、Ctrl+Alt+Del を押すことで表示できるので、ユーザーはユーザー名とパスワードを使用してログオンできます)。


・Windows パスワードによるログオンのスキップを許可する - このオプションを選択した場合、標準の Windows ログオンを使用できます。オフにすると、ユーザー名とパスワードを使用してログオンできるのは、指紋管理者だけになります。

・[ログオン時にユーザーの自己登録を許可する] - ユーザーはコンピュータへのログオン時に指を自己登録できます。

 ・Windows Vista を使用している場合は、[詳細] をクリックして、ユーザー認証がシステムでどのように管理されているか、資格情報プロバイダの設定を確認してください。詳細については、後述の「Windows Vista の資格情報プロバイダ」を参照してください。

・ユーザーの簡易切り替え - このオプションを選択すると、指紋で制御される、生体認証によるユーザーの簡易切り替えが有効になります(システムでサポートされている場合)。

ユーザーの簡易切り替えはサポートされているが有効になっていない場合、システムで有効にするよう求められます。ユーザーの簡易切り替えは、コンピュータがドメインのメンバである場合は有効にできません。

 Windows Vista を使用している場合、このオプションは既定で常にオンとなり、変更できません。

・標準の Windows ログオン - このオプションを選択すると、指紋ログオンは無効になり、標準の Windows ログオンが使用されます。

・パワーオンセキュリティの単一サインオンを許可する - このオプションを選択すると、パワーオン指紋認証とログオン指紋認証が1 つのステップで実行されます。

BIOS レベルで認証済みのユーザーは、自動的に Windows にログオンできます。

4 [OK] をクリックしてコンピュータを再起動します。

Windows Vista の資格情報プロバイダ

資格情報プロバイダでは、システムの認証にさまざまな方法を指定できます。Microsoft パスワードプロバイダはユーザー名とパスワードを要件とし、指紋プロバイダはセンサーによる指のスキャンを要件とします。資格情報プロバイダの一覧は、特定のシステムの設定によって異なります。

▶ プロバイダの設定を表示するには：

- 1 [スタート]- [プログラム]- [**Protector Suite QL**]- [コントロールセンター] を選択します。
または、指を読み取ってバイオメトリックメニューを表示し、[コントロールセンター開始...] を選択します。または、トレイアイコンを右クリックし、[コントロールセンター開始...] を選択します。
- 2 [設定]- [システム設定]- [ログオン] を選択します。
- 3 [詳細] をクリックします。
- 4 資格情報プロバイダには、次の機能を定義できます。
 - ・ [ログオン] は、ユーザーがシステムにログオンする際の認証方法を定義します(指紋のみ、名前とパスワードなど)。
 - ・ [アンロック] は、ユーザーがコンピュータをアンロックする際の認証方法に定義します。
 - ・ [管理者として実行] は、Windows Vista の機能です。限定ユーザーとしてログオンしているユーザーが、管理者として認証され、管理者だけに制限されているアプリケーションを実行できます。
 - ・ [パスワードを変更] は、ユーザーパスワードの変更に必要な認証タイプを定義します(指紋認証、ユーザー名とパスワードなど)。
- 5 以下を選択します。
 - ・ [登録されているユーザーのタイル画像をマークする] を選択すると、ユーザーが登録され、ログオンが指紋で管理されることを表すマークとして、指紋のアイコンがユーザーアカウントタイルの画像上に表示されます。選択しない場合、アカウントタイルは通常どおりに表示されます。この設定では、Microsoft パスワードプロバイダが" ラップ" 状態に設定されます(後述の説明を参照)。
 - ・ [ログオン時にユーザーの自己登録を許可する] を選択すると、有効なパスワードがあり、指紋を登録していないユーザーが、コンピュータにログオンするときに指を登録できます。

- 6 プロバイダの設定を表示するには、一覧からプロバイダを選択し、[詳細...] をクリックします(またはプロバイダをダブルクリックします)。



メモ：指紋プロバイダおよび Microsoft パスワードプロバイダをユーザーが設定することはできません。これらの設定は事前定義されています。

- 7 選択したプロバイダを表示するダイアログが表示されます。次のオプションがあります。
- ・ **[オン]** を選択するとプロバイダがオンになります。たとえば、[ログオン] セクションで指紋プロバイダが [オン] に設定されている場合、ユーザーはコンピュータへのログオン時に指をセンサーでスキャンして認証するよう求められます。
 - ・ **[オフ]** を選択するとプロバイダがオフになります。たとえば、[ログオン] セクションで Microsoft パスワードプロバイダが [オフ]、指紋プロバイダが [オン] に設定されている場合、ログオン時には指紋認証のみが許可されます。
 - ・ **[ラップ]**- ラップされたプロバイダはユーザーにはオンになっているように見えますが、このプロバイダの機能は指紋プロバイダによって制御されます。



メモ：指紋プロバイダは、ラップとして設定することはできませんが、他のプロバイダ (Microsoft パスワードプロバイダなど) をラップにすることはできます。

セキュリティモード

Protector Suite QL では、次の 3 つのセキュリティモードを実行できます。

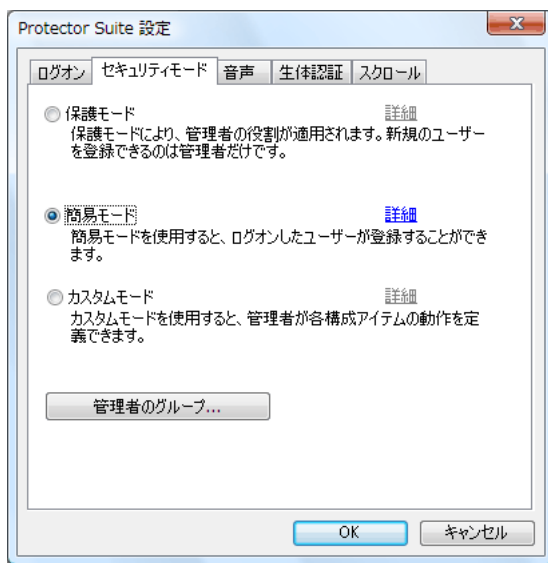
保護モード、簡易モード、およびカスタムモード

これらのセキュリティモードでは、ユーザーに与えられる権限が異なります。これらの権限には、ユーザーを登録する権限、指紋を削除または編集する権限などが含まれます。

[詳細] をクリックすると、各モードのセキュリティポリシーの設定を確認できます。編集できるのは、カスタムモードのポリシーだけです。

指紋管理者のグループ

" 指紋管理者 " として指定されているユーザーのローカルまたはドメインセキュリティグループの一覧が含まれます。指紋管理者のユーザーには管理の管理者権限が与えられます。Protector Suite QL これらのユーザーの権限は、セキュリティモードのポリシーで指定されます (以下を参照)。



▶ セキュリティモードを選択するには：

- 1 [スタート]- [プログラム]- [**Protector Suite QL**]-[コントロールセンター] を選択します。

または、指を読み取ってバイオメトリックメニューを表示し、[コントロールセンター] を選択します。または、トレイアイコンを右クリックし、[コントロールセンター開始...] を選択します。

- 2 [設定]- [システム設定] を選択します。
- 3 [セキュリティモード] タブを選択します。次のオプションを選択します。

- ・ **保護モード**。保護モードでは、指紋管理者のみがすべての指紋管理機能(全ユーザーの指紋パスポートの作成、削除など) に無制限にアクセスできます。これらの機能には、指紋デバイス内データ管理およびパワーオンセキュリティ管理も含まれます。

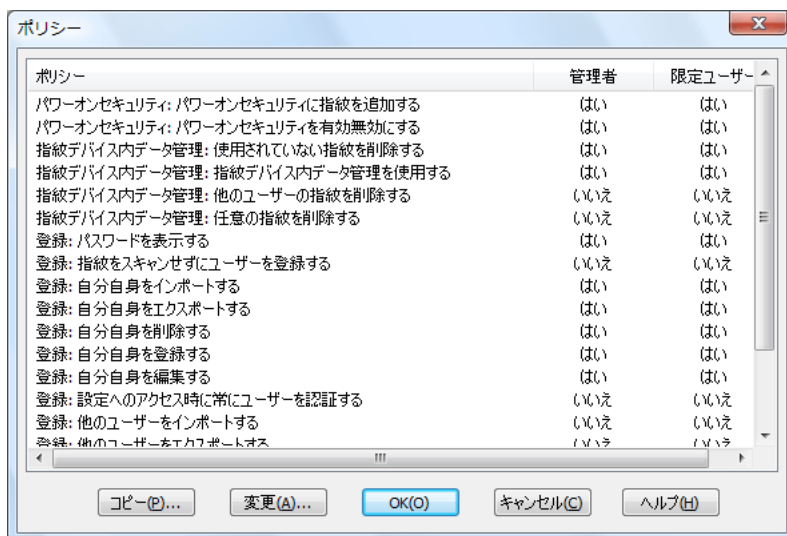
- ・ **簡易モード**。簡易モードでは、すべてのユーザーが同じ権限を共有します。たとえば、すべてのユーザーが自分自身の指紋パスポートを作成、編集、または削除できます。

- ・ **カスタムモード**。カスタムモードのポリシーの設定は、管理者と限定ユーザーに対して別々にセットアップできます。

4 [OK] をクリックしてダイアログを閉じます。

セキュリティモードのポリシー

保護モードおよび簡易モードのポリシーはあらかじめ設定されており、変更することはできません。変更できるのは、カスタムモードのポリシーだけです。ポリシーを選択してダブルクリックすると、詳細を確認できます。



▶ ポリシーをカスタムモードで編集するには：

- 1 [スタート]- [プログラム]- [**Protector Suite QL**]- [コントロールセンター] を選択します。
または、指を読み取ってバイオメトリックメニューを表示し、[コントロールセンター] を選択します。または、トレイアイコンを右クリックし、[コントロールセンター開始...] を選択します。
- 2 [設定]- [システム設定] を選択します。
- 3 [セキュリティモード] タブを選択します。
- 4 [カスタム] ラジオボタンをクリックして、[詳細] をクリックします。ポリシーウィンドウが表示されます。以下のポリシーの詳細を参照してください。

5 [変更] ボタンをクリックするか、またはダブルクリックして、ポリシー設定を編集します。

6 [OK] をクリックしてダイアログを閉じます。

ポリシーは、指紋管理者と限定ユーザーアカウントに対して別々に定義できます。[許可] または [拒否] を選択して、各ユーザーグループの権限を設定します。

ポリシーの設定を簡易モードまたは保護モードからカスタムモードにコピーし、さらに編集することができます。これは、ポリシーの設定を少しだけ変更したい場合に便利です。

► ポリシーを簡易モードまたは保護モードからコピーするには：

1 [スタート]- [プログラム]- [**Protector Suite QL**]-[コントロールセンター] を選択します。

または、指を読み取ってバイオメトリックメニューを表示し、[コントロールセンター] を選択します。または、トレイアイコンを右クリックし、[コントロールセンター開始...] を選択します。

2 [設定]- [システム設定] をクリックします。

3 [セキュリティモード] タブを選択します。

4 [カスタム] ラジオボタンをクリックして、[詳細] をクリックします。ポリシーのウィンドウが表示されます。以下のポリシーの詳細を参照してください。

5 [コピー] ボタンをクリックしてポリシーの設定をコピーします。

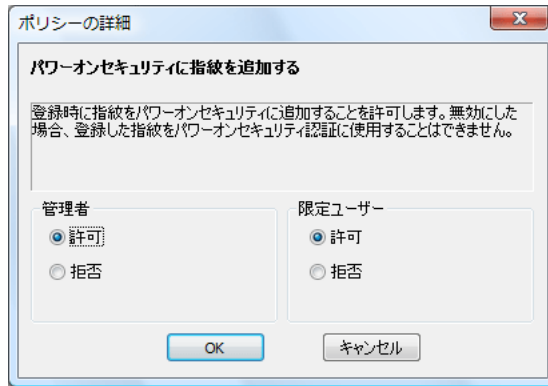
6 [保護モード] または [簡易モード] を選択すると、選択したモードからポリシーの設定がコピーされます。

7 これで [変更] ボタンを使用してポリシーを編集できます。

8 [OK] をクリックしてダイアログを閉じます。

ポリシーの詳細

ポリシーを選択してダブルクリックすると、詳細を確認できます。



登録：

- 設定へのアクセス時に常にユーザーを認証する：コントロールセンターのアプリケーション設定にアクセスするとき、ユーザーは常に認証の実行を要求されます。このポリシーは保護モードの場合のみデフォルトで有効化されています。
- 他のユーザーを削除する：このコンピュータに登録されているユーザーの指紋パスポートを削除することを許可します。パスポートを削除する前に認証は必要ありません。
- 自分自身を削除する：認証後に、現在ログオンしているユーザーの指紋パスポートを削除することを許可します。
- 他のユーザーを編集する：このコンピュータに登録されているユーザーの指紋パスポートを編集(登録済みの指紋の追加または削除など)することを許可します。
- 自分自身を編集する：現在ログオンしているユーザーの指紋パスポートを編集(登録済みの指紋の追加または削除など)することを許可します。
- 他のユーザーを登録する：他のユーザーが指紋を登録することを許可します。有効な Windows アカウントを持つユーザーのみ登録できます。
- 自分自身を登録する：現在ログオンしているユーザーが指紋を登録することを許可します。
- 指紋をスキャンせずにユーザーを登録する：ユーザーが指紋のスキャンなしで登録されることを許可します。次回ログオン時に、ユーザーは指紋をスキャンするよう求められます。

- 他のユーザーをエクスポートする：このコンピュータに登録されているユーザーの指紋パスポートをエクスポートすることを許可します。
- 自分自身をエクスポートする：現在ログオンしているユーザーの指紋パスポートをエクスポートすることを許可します。
- 他のユーザーをインポートする：このコンピュータに登録されているユーザーの指紋パスポートをインポートすることを許可します。
- 自分自身をインポートする：現在ログオンしているユーザーの指紋パスポートをインポートすることを許可します。
- パスワードを表示する：指紋の登録時にユーザーの Windows パスワードが表示されることを許可します。

指紋デバイス内データ管理：

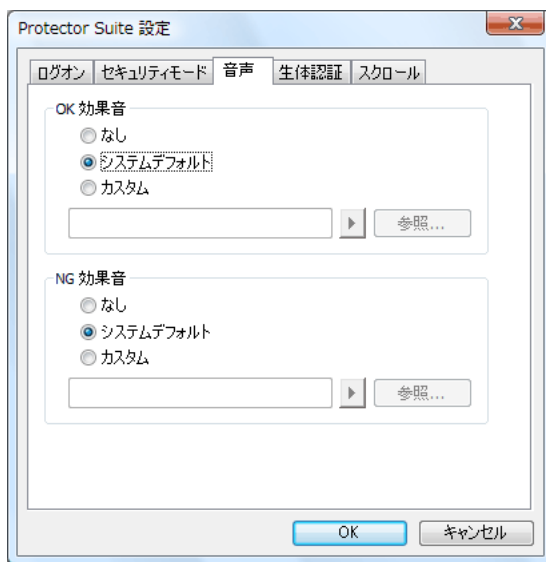
- 任意の指紋を削除する：デバイスからの指紋の削除を許可します(このポリシーを有効にするには、[指紋デバイス内データ管理を使用する] ポリシーが有効になっている必要があります)。
- 他のユーザーの指紋を削除する：他のユーザーの指紋を削除することを許可します。ただし、各ユーザーに対して1つ以上の指紋を残す必要があります(このポリシーを有効にするには、[指紋デバイス内データ管理を使用する] ポリシーが有効になっている必要があります)。
- 使用されていない指紋を削除する：以前のインストールからの指紋レコードなど、ローカルで登録されているユーザーに属さない指紋レコードを削除することを許可します(このポリシーを有効にするには、[指紋デバイス内データ管理を使用する] ポリシーが有効になっている必要があります)。
- 指紋デバイス内データ管理を使用する：指紋デバイス内データ管理を使用することを許可します。ユーザーは自分自身の指紋のみを削除できます(1つ以上の指紋を残す必要があるため、最後の1つは除きます)。

パワーオンセキュリティ：

- パワーオンセキュリティに指紋を追加する：登録時に指紋をパワーオンセキュリティに追加することを許可します。無効にした場合、登録した指紋をパワーオンセキュリティ認証に使用することはできません。
- パワーオンセキュリティを有効/無効にする：このコンピュータでパワーオンセキュリティを有効または無効にすることを許可します。

音声

選択した音声は、指紋の操作が成功または失敗したときに再生されます。既定のシステム音声を使用したり、音声を無効にしたりすることができます。また、任意のオーディオファイル(.wav 形式)を参照することもできます。



生体認証

この設定では、指紋センサーのセキュリティレベルの設定を変更できます。変更を加えるたび再起動する必要があります。

▶ 生体認証の設定を変更するには：

- 1 [スタート]- [プログラム]- [**Protector Suite QL**]- [コントロールセンター] を選択します。

または、指を読み取ってバイオメトリックメニューを表示し、[コントロールセンター] を選択します。または、トレイアイコンを右クリックし、[コントロールセンター開始...] を選択します。

- 2 [設定]- [システム設定] をクリックし、[セキュリティモード]- [生体認証] に移動します。

・ 侵入者ロックアウト

- ・ ロックアウト回数：デバイスをロックするまでの認証の試行の失敗回数を設定します。

- ・ **ロックアウト時間**：デバイスをロックするまでの時間を設定します。設定された時間が経過したら、指紋センサーを再び使用できます。

- ・ **生体認証のパフォーマンス**：指紋のスキャンと登録済みサンプルがどれくらい正確に一致する必要があるかを設定します。最低のレベルに設定すると、デバイスのセキュリティが侵害される可能性があることに注意してください。ただし、最高のレベルに設定すると、登録済みサンプルとの完璧な一致が求められるため、許可されているユーザーでも認証に繰り返し失敗する可能性があります。デフォルトのレベル(中)に設定することを推奨します。

TPM (オプション)

このページは、サードパーティーの TPM 管理アプリケーションが検出されたときに表示されます。TPM の初期化により、マルチファクタ機能による TPM セキュリティモジュールの使用を有効化します。指紋登録時にマルチファクタ方式を設定する方法については第 3 章、17 ページの「マルチファクタ方式」を参照してください。

▶ TPM モジュールを初期化するには：

- 1 [TPM を初期化] ボタンをクリックして、TPM 初期化ウィザードを実行します。
- 2 [ようこそ] 画面で [次へ] をクリックします。初期化が行われます。
- 3 操作の結果が表示されます。操作が成功すると、**Protector Suite QL** は追加的な TPM セキュリティを使用できるようになります。
- 4 [完了] ボタンをクリックし、ウィザードを終了します。

スクロール

マウスホイールの代わりに指紋センサーを使って、バイオメトリックメニュー (89 ページを参照) や Windows アプリケーションをスクロールできます。

トレイアイコンで [センサーのスクロール機能] を選択する (トレイアイコンを右クリックして機能を選択する) か、スクロール切替ホットキーを押すことにより、スクロール機能のオン/オフを切り替えることができます。

[センサーのスクロール機能] を選択すると、トレイアイコンが変化し、スクロール機能がオンであることが示されます。Protector Suite QL のインストール後、デフォルトではホットキーは定義されていないので、設定する必要があります (下記を参照)。

▶ スクロール機能とスクロール切替ホットキーを設定するには：

- 1 [スタート]- [プログラム]- [**Protector Suite QL**]- [コントロールセンター] を選択します。
または、指を読み取ってバイオメトリックメニューを表示し、[コントロールセンター] を選択します。または、トレイアイコンを右クリックし、[コントロールセンター開始...] を選択します。
- 2 [設定]- [システム設定] をクリックします。
- 3 [スクロール] タブを選択します。
 - ・ [テストスクロール] ボタンをクリックして、選択した値でスクロールをテストします。
 - ・ [速度]- スライダを使って、スクロールの速さを調節します。これにより、センサー上で指を動かしたときにカーソルがどれくらい移動するかが設定されます。
 - ・ [加速度]- スライダを使って、スクロールの加速度を設定します。センサー上で指を速く動かすほど、スクロールも速くなります。
 - ・ スクロール切替ホットキーを設定するには、[スクロール切替ホットキー] フィールドにフォーカスを置きます。スクロール機能のオン/オフを切り替えるのに使用するキーを押します。
- 4 [OK] をクリックしてダイアログを閉じます。

ユーザー設定

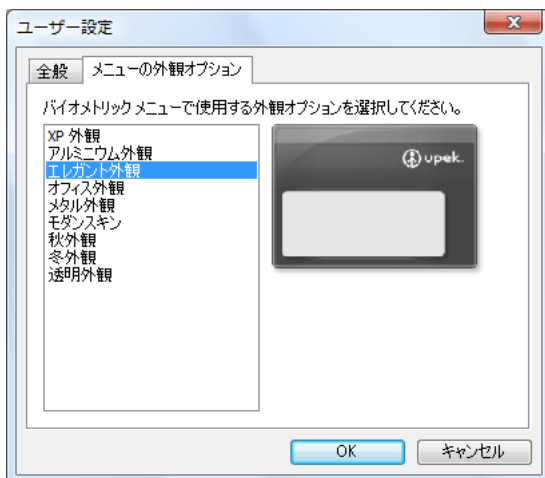
[ユーザー設定] には、ユーザー指定の設定が含まれています。次の機能は、[ユーザー設定] で設定することができます。

全般

[トレイにアイコンを表示] チェックボックスをオンにするとトレイアイコンが表示され、Protector Suite QL の一部の機能にすばやくアクセスできるようになります。トレイアイコンで利用できる機能については、ページの「システムトレイアイコン」を参照してください。

バイオメトリックメニューの外観

Protector Suite QL のバイオメトリックメニューの外観 (スキン) を選択します。ダイアログの右側にサンプルが表示されます。ただし Windows 2000 では、外観をプレビューすることはできません。



パワーオンセキュリティ (オプション)

パワーオンセキュリティ機能は、ユーザーのコンピュータへの未許可のアクセスを BIOS レベルで防ぎます。パワーオンセキュリティが有効なコンピュータは、指紋認証に成功しない限りハードドライブからオペレーティングシステムを起動しません。

指紋サンプルは、指紋デバイスのメモリに格納されています。コンピュータの起動時に、ユーザーは指紋認証を求められます。指をセンサーでスキャンする時間は限られています。コンピュータは、スキャンされた指紋が指紋デバイスのメモリに格納されているサンプルに一致する場合のみ起動します。認証に成功すると、起動プロセスが通常どおり続行されます。

Protector Suite QL でのパワーオンセキュリティの有効化

パワーオンセキュリティを操作するためのオプションは、この機能がコンピュータでサポートされている場合のみ表示されます。この機能は主にラップトップコンピュータでサポートされています。ほとんどの設定では、最初のユーザーの登録後パワーオンセキュリティが自動的に有効になります。

▶ パワーオンセキュリティを有効または無効にするには：

- 1 [スタート]- [プログラム]- [**Protector Suite QL**]- [コントロールセンター] を選択します。
または、指を読み取ってバイオメトリックメニューを表示し、[コントロールセンター] を選択します。または、トレイアイコンを右クリックし、[コントロールセンター開始...] を選択します。
- 2 [設定]- [パワーオンセキュリティ] をクリックします。
- 3 [指紋を使用するパワーオンセキュリティを有効化] チェックボックスを選択します。
- 4 [終了] をクリックします。

ハードディスクへの登録が設定されている場合、[パワーオンセキュリティ] ダイアログで使用可能なオプションが増えます。パワーオンセキュリティメモリに存在する指紋は、[パワーオンセキュリティで認証されている指紋] ウィンドウに表示されます。ここでパワーオンセキュリティメモリから指紋を削除することができます。パワーオンセキュリティに指紋を追加する方法については、第 3 章、14 ページの「指紋の登録」を参照してください。

パワーオンセキュリティの単一サインオン

パワーオンセキュリティは、指紋ログオンと連携するように設定できます。BIOS パワーオンセキュリティ機能で使用する指紋が既存パスポートの指紋と一致する場合、該当するユーザーは、Windows パスワードの入力や二度目の読み取りをせずに、自動的にログオンすることができます。別の認証方式が必要になる場合があります。[マルチファクタ] ダイアログで設定した内容によって異なります (第 3 章、14 ページの「指紋の登録」を参照)。

▶ パワーオンセキュリティで認証済みのユーザーを Windows ログオンで自動的に有効にするには：

- 1 [スタート]- [プログラム]- [**Protector Suite QL**]- [コントロールセンター] を選択します。
または、指を読み取ってバイオメトリックメニューを表示し、[コントロールセンター] を選択します。または、トレイアイコンを右クリックし、[コントロールセンター開始...] を選択します。
- 2 [設定]- [システム設定] をクリックします。
- 3 [ログオン] タブを選択します。

4 [パワーオンセキュリティの単一サインオンを許可する] チェックボックスをオンにします。



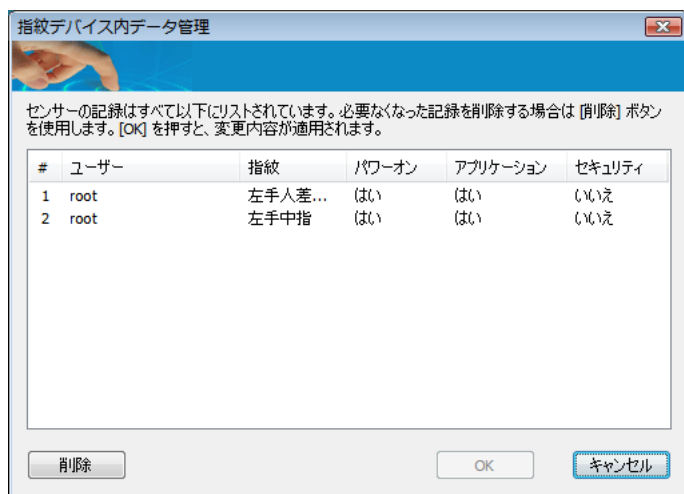
メモ：この単一サインオンを使用するには、使用しているハードウェアでパワーオンセキュリティがサポートされている必要があります。さらに、設定を変更するには、管理者の権限が与えられている必要があります。

指紋デバイス内データ管理 (オプション)

この機能は、デバイスへの登録が使用されている場合にのみ利用可能です。

指紋記憶検査装置は、指紋センサーデバイスに保存されたデータを表示、編集するためのツールです。デバイス中のレコードがすべて表示されます。

指紋ごとに、その指紋の説明や、パワーオンセキュリティ（起動前認証）、アプリケーション（ログオンなど）、およびマルチファクタ認証方式などの使用方法に関する情報が表示されます。



▶ 指紋をデバイスから削除するには

- 1 データを削除したい場合は、該当するレコードを選択して [削除] ボタンをクリックします。削除すると、レコードの一覧にも反映されます。
- 2 不要なレコードをすべて削除した後 [OK] ボタンをクリックすると、変更が確定します。[キャンセル] をクリックすれば削除を取り消すことができます。

各パスポートに1つ以上の指紋を残す必要があります。パスポート全体を管理または削除するには、[指紋の登録、または編集] ウィザードを使用します(ページの「指紋の登録または編集」を参照)。



メモ：指紋を削除する許可はセキュリティモードのポリシー設定で指定されます(ページの「セキュリティモード」を参照)。一部の権限は指紋管理者のみに制限される可能性があります。

センサーの調整 (オプション)

センサーによってサポートされている場合は、調整ダイアログが開きます。[調整] ボタンをクリックし、調整が完了するまで待機します。センサーが正しく機能していない場合には、調整を使用できます。調整中は、センサーに触れないでください。

ヘルプ

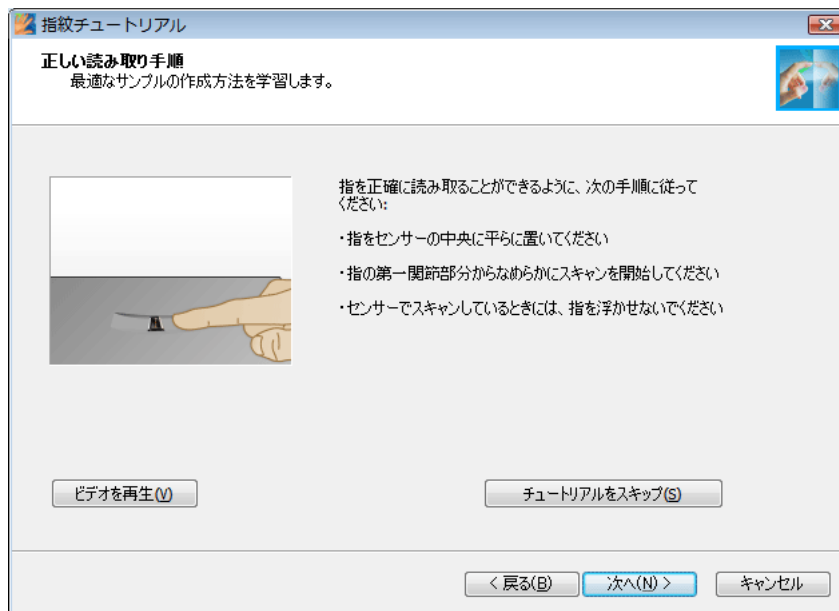
紹介

指紋が登録されていない場合に指をセンサーでスキャンすると開始ページが表示されます。このページには Protector Suite QL 製品の紹介に進むリンクと指紋登録に進むリンクが含まれます。あとから [コントロールセンター] - [ヘルプ] - [紹介] からアクセスすることができます。


チュートリアル

[指紋チュートリアル] が起動されます。

チュートリアルでは、指紋の正しいスキャン方法、誤ったスキャン方法を、短いビデオで説明しています。また、実際に指紋をスキャンしてみることができます。



詳細については、第 3 章、20 ページの「指紋チュートリアル」を参照してください。

 **メモ** : HTML のヘルプを表示するには、[スタート] - [プログラム] - [ヘルプ] を選択するか、メインの [コントロールセンター] ダイアログで [ヘルプ] アイコンをクリックします。**Protector Suite QL** 状況依存の HTML ヘルプを表示するには、ヘルプを表示するダイアログボックスで F1 を押します。

バイオメトリックメニュー

バイオメトリックメニューは、Protector Suite QL の機能および設定へのアクセスを提供します。利用可能なアイテムは、インストールされているコンポーネントによって異なります。

▶ バイオメトリックメニューを表示するには：

- ・ 指紋センサーで登録する指を読み取ります。

このとき他の機能(登録済みページのリプレイなど)が働いてしまう場合は、**Shift** キーを押しながら指を読み取ってください。

マウスか、センサーを使ってメニューを操作します。センサーを使用する場合は、指を動かしてバイオメトリックメニューを操作し、選択した項目を軽くたたいて該当する機能を実行します。スクロールの設定は、[システム設定] ダイアログで設定できます(ページの「スクロール」を参照)。

バイオメトリックメニューは複数の外観で利用可能です。外観を表示または変更するには、[コントロールセンター] - [設定] - [ユーザー設定]を開き、指を読み取って認証し、[メニューの外観オプション] タブに移動します。

・ コンピュータをロック

先頭のメニュー項目は、コンピュータを操作できないようロックするコマンドです。コンピュータを再びアンロックするには、指をセンサーでスキャンします。

・ 登録済みサイト(オプション)

パスワードバンクに登録されている Web ページの一覧を表示します。既定の Web ブラウザで登録済みページを表示し、データを入力するには、この一覧で目的の Web ページ名をクリックします。一覧の外観は [システム設定] の [パスワードバンク] タブで編集できます。第 4 章、66 ページの [パスワードバンク] を参照してください。

・ 登録... (オプション)

新しいウィンドウに登録します(Web ページまたはダイアログ)。パスワードバンクの登録の詳細については、第 3 章、27 ページの [Web ページとダイアログの登録] を参照してください。

・ Personal Safe (オプション)



現在の状態に応じて、[Personal Safe の初期化]、[Personal Safe のロック] または [Personal Safe をアンロックして開く] が表示されます。初期化により、Personal Safe の使用準備が行われ、その後、Personal Safe をロックする機能またはアンロックして開く機能が使用可能になります。

- **すべてのアーカイブをロック (オプション)**

現在開いているすべての File Safe アーカイブをロックします。このアイテムは、2 つ以上のアーカイブがアンロックされている場合にのみ表示されます。

- **トークンコード...(オプション)**

トークンコードジェネレータを表示します。トークンコードジェネレータは、セキュリティトークンを選択し、そのトークンを使用してトークンコードを生成することができる簡単なダイアログです。

- **コントロールセンター開始...**

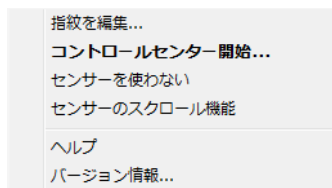
[コントロールセンター開始] ダイアログを表示します(ページの「コントロールセンター」を参照)。

- **ヘルプ**

HTML ヘルプを表示します。状況依存の HTML ヘルプを表示するには、ヘルプを表示するダイアログボックスで **F1** を押します。

システムトレイアイコン

システムトレイの Protector Suite QL アイコンはプログラムが実行中であることを示し、指紋認証を必要としない機能へのアクセスを提供します。



指紋の編集 ...

指紋登録ウィザードを開きます。

このウィザードは、コントロールセンターから [指紋] - [指紋の登録または編集] を選択して起動することもできます。指紋の登録方法の詳細については、**第 3 章、14 ページの [指紋の登録]** を参照してください。


コントロールセンター開始 ...

Protector Suite QL のコントロールセンターを開始します (60 ページを参照)。

[センサーを使わない] / [センサーを使う]

Protector Suite QL から別のアプリケーションでの使用のために指紋デバイスを一時的に取り外すことができます。このコマンドによって、現在のユーザーセッションから一時的にデバイスが解除されます (デバイスは一度に 1 つのアプリケーションでしか使えません)。

[センサーを使わない] オプションを選択すると、Protector Suite QL による指紋認証は行われません。

 **重要：** この機能は生体認証アプリケーションの開発者などの上級ユーザーのみを対象にしています。

センサーのスクロール機能

[センサーのスクロール機能] を選択すると、トレイアイコンが変化し、スクロール機能がオンであることが示されます。Protector Suite QL のインストール後、デフォルトではホットキーは定義されていないので、設定する必要があります (ページの「スクロール」を参照)。スクロールを無効にするにはチェックをオフにします。

ヘルプ

HTML ヘルプを表示します。状況依存の HTML ヘルプを表示するには、ヘルプを表示するダイアログボックスで F1 を押します。

バージョン情報

Protector Suite QL についての製品情報を表示します。

指紋読み取り装置の情報パネル

指紋読み取り装置の情報パネルには、センサーと指紋読み取りのテストウィンドウに関する情報が含まれます。ハードウェアで問題が発生した場合は、このダイアログでセンサーに関する詳細を確認して、テクニカルサポートなどに問い合わせることができます。

▶ 指紋読み取り装置の情報パネルを表示するには

- 1 [スタート]- [コントロールパネル] を選択します。
- 2 [指紋センサー] アイコンをクリックします。[指紋読み取り装置の情報パネル] ダイアログが表示されます。
 - ・ [バージョン] タブを選択して、センサーに関する情報(デバイスのタイプ、名前、バージョンなど) を表示します。情報をテキストファイルにエクスポートするには、[保存] をクリックして、ファイルの保存先を選択します(既定では *FingerprintSensorVersion.txt*)。
 - ・ センサーで指を読み取ったときにスキャンされた指紋のテスト画像を表示するには [指紋のテスト] を選択します。
- 3 [閉じる] をクリックしてダイアログウィンドウを閉じます。



第5章

Protector Suite QL の トラブルシューティング

インストール

Protector Suite QL をインストールできません。

- ・ 権限を調べてください。インストールするユーザーは管理者権限を持つ必要があります。Protector Suite QL
- ・ ディスクの空き容量が十分かどうかを調べてください。Protector Suite QL をインストールするには、およそ 40 MB が必要です。
- ・ システムを調べてください。サポートされているのは、Windows 2000、2003、Windows XP および Windows Vista のみです。

Protector Suite QL をインストールしても動作しません。

- ・ Protector Suite QL のインストール後には再起動が必要です。

指紋の登録

デバイスが機能しません。

- ・ デバイスの接続を調べてください。
- ・ ドライバが正しくインストールされているかどうかを調べてください。ドライバは通常、Protector Suite QL のインストール時にインストールされます。ただし、問題がある場合は、インストールフォルダの [Drivers] サブフォルダの中に必要なドライバがあります。デバイス固有のドライバのインストールについては、[Drivers] フォルダの Readme.txt を参照してください。(デバイスのステータスを調べるには、[マイコンピュータ] を右クリックし、[プロパティ]- [ハードウェア] を選択して、[デバイスマネージャ] を開きます。)

指紋を登録できません。指紋が正しく認識されません。

- ・ 指紋チュートリアルを実行して、適切なサンプルを作成する方法を確認してください。指紋チュートリアルは、指紋登録の一部として実行するか、[スタート] メニューから個別に実行できます。
- ・ センサーへの押し付け方を強くまたは弱くしてみてください。
- ・ 指をなぞる速さを変えてみてください。
- ・ センサーを掃除してください。糸くずなどが付いていない布を湿らせて(水または無香料の保湿ローションを使用)、センサーを軽くこすります。傷が付くような布は使用しないでください。
- ・ 指を拭いてください(特に、暑いとき)。
- ・ 別の指で試してください。通常は、人差し指の方が小指よりも簡単に登録できます。

1 本だけ登録している指をケガしたため、指紋認証を使用できません。別の指を登録するにはどうすればよいですか？

Protector Suite QL を完全に使用できるようにするには、使用可能な登録済みの指紋が必要です。このような問題を避けるために、少なくとも2本の指を登録することを強くお勧めします。

登録されている指紋を更新するには、[指紋の登録または編集] ウィザードを起動する必要があります。

- マルチファクタの選択時に認証方式として Windows のパスワードを指紋と合わせて使用することを選択した場合、指紋認証ウィンドウを閉じてパスワードを入力します。
- バックアップパスワードを使用せずに指紋を単独のマルチファクタ方式として使用している場合、別の指を追加する方法はありません。この場合は、(ケガが治るなど) 指がまた使用できるようになるのを待つか、パスポートを削除([コントロールセンター]([指紋]- [削除] ウィザードへ移動) して新しい指紋を登録します。この場合、保存された機密データ(パスワード、暗号化キー) はすべて失われることに注意してください。削除操作を実行するには、指紋照合操作をキャンセルしてパスワードダイアログを表示し、Windows のパスワードを入力する必要があります。
- マルチファクタ方式として指紋リーダーキーまたは TPM + 指紋リーダーキーを設定している場合、登録の最後に、デバイス上の機密データをアンロックするには認証するよう求められます。

保護モードでユーザーを登録できません。

- ユーザーパスポートが存在しているかどうかを調べてください。おそらくユーザーは既に登録されていると考えられます。パスポートは、ユーザーごとに1 つしか作成できません。

ユーザーのインポートが機能しません。

- ユーザーパスポートが存在しているかどうかを調べてください。既存のユーザーのデータをインポートする場合は、まず古いパスポートを削除する必要があります。
- [指紋デバイス内データ管理]([コントロールセンター]- [設定]- [指紋デバイス内データ管理]) でデバイスメモリを調べてください(デバイスへの登録が使用されている場合のみ)。

なぜユーザーパスポートをエクスポートする必要があるのですか？

エクスポートしたデータには、指紋の情報、ログオン資格情報、パスワードバンク登録、File Safe の暗号情報 (File Safe のデータは含まない) が含まれます。

- これらすべての情報のバックアップとしてユーザーデータを定期的にエクスポートしてください。

バックアップパスワードを紛失しました。

- ・ マルチファクタ方式のバックアップパスワードを変更するには、[指紋の登録または編集] ウィザードに移動し、認証してから指紋登録を実行します。
[マルチファクタ] ダイアログで、バックアップパスワードを変更できます。

センサーを交換する必要があります。

壊れた指紋センサーすなわち読み取り装置を交換する場合は、次の手順を実行します。

ハードディスクへの登録

- ・ ハードディスクへの登録を使用している場合、*Protector Suite QL* はデバイスにはデータを保存しません。したがって、センサーを交換したあとで実行する必要のある手順はありません。パワーオンセキュリティ(起動前認証)を使用している場合は、[指紋の登録または編集] ウィザードを使用して関連データを更新することが必要な場合があります。

デバイスへの登録

- ・ パスポートと指紋デバイスが関連しているため、現在のパスポートを以前エクスポートしたパスポートで置き換える必要があります。

次のようにバックアップを新しいデバイスにインポートして、パスポートを復元することができます。

- 1 パスポートを削除します。
- 2 新しい(機能する)デバイスを接続します。
- 3 バックアップファイルからパスポートをインポートします。

外部読み取り装置の切り替え

- ・ 複数の指紋読み取り装置を *Protector Suite QL* で使用する場合(内部装置1つと外部装置1つ、または外部装置2つなど)、上記の手順を同様に適用します。ハードディスクへの登録を使用していれば、通常、問題はありません。ただし、パワーオンセキュリティ(起動前認証)で例外が発生する可能性があります。デバイスへの登録を使用している場合は、十分な理由がない限りは、読み取り装置を切り替えないようにしてください。切り替えると、パスポートの削除と再作成が必要になります。

デバイスへの登録を使用していて、読み取り装置にコンピュータに存在するユーザーのデータ(別あるいは以前の *Protector Suite QL* インストールのデータ)が含まれる(かつ、まだ登録していない)場合、このデータを再利用するかどうかをたずねるプロンプトが表示されます。

読み取り装置にコンピュータに存在するユーザーのデータ (別あるいは以前の Protector Suite QL インストールのデータ) が含まれる (かつ、まだ登録していない) 場合、このデータを再利用するかどうかをたずねるプロンプトが表示されます。

新しい読み取り装置に、既に登録済みのユーザーのデータが含まれていても、そのデータを再利用することはできません。セキュリティ上の理由 (認証されていない指紋の追加を回避する) で、デバイスから指紋が削除されます。

TPM モジュールが機能しません。

認証方式として TPM (Trusted Platform Module) を使用していて、TPM モジュールが破損、削除、または無効化されている場合、認証は行われません。

バックアップパスワードを設定している場合、次の手順に従います。

- 1 バックアップパスワードを使用して [指紋の登録または編集] ウィザードを実行します。
- 2 追加の指を登録する必要なく、[マルチファクタ] ウィンドウで別の認証方式を選択して [完了] ボタンをクリックします。
- 3 TPM が修復および有効化されたあとで、あるいは TPM が削除されていた場合にも、指を使用して [指紋の登録または編集] ウィザードを再び開始し、TPM による認証方式を再有効化します。

ユーザーの簡易切り替え

ユーザーの簡易切り替えを有効にできません。

このオプションは、Windows XP が稼働するコンピュータのみで表示されます。ユーザーの簡易切り替え機能を使用できるのは、ドメインのメンバではないコンピュータのみです。

- 使用するコンピュータがドメインに含まれないことを確認してください。
- 他のソフトウェア (Novell Client など) をインストールしたためにユーザーの簡易切り替えが使用できなくなることがあります。

ログオン

ユーザー名とパスワードを使用してログオンできません。

- ・ セキュリティモードを調べてください。簡易モードでは、すべてのユーザーがユーザー名とパスワードを使用したログオンが可能です。セキュアモードでこのオプションを使用できるのは管理者のみです。

Protector Suite QL のシステム設定がコントロールセンターに表示されていますが、変更できません。

- ・ ユーザー権限を調べてください。システム設定を変更できるのはローカル管理者のみです。ローカル管理者とは、**Protector Suite QL** の管理者グループのメンバーと同じものではありません。このグループのメンバーはパスポート、指紋、パワーオンセキュリティを管理でき、ユーザー名とパスワードを使用してログオンすることもできます。

パスワードバンク

登録済みページが **Internet Explorer** で間を置いてリプレイされます。

登録がリプレイされるのは、ページが完全に読み込まれた後だけです。**Internet Explorer** では、ページがまだ読み込まれていなくても、読み込み済みであると誤って示される（右上隅のアニメーションが停止する）ことがあります。ユーザーが [中止] をクリックして読み込みを終了しても、IE でコマンドが無視されて中止されない場合があります。そのような場合は、ページが完全に読み込まれるまで待ってください。ページが既に読み込まれている場合でも、マウスをアクティブな項目（フラッシュアニメーションなど）に移動するとオブジェクトの読み込みが開始されるページで、同様の問題が発生することがあります。

- ・ ページが完全に読み込まれるまで待ってください。

既に登録されているページを登録できません。指を読み取ると、リプレイが始まります。

- ・ **SHIFT** キーを押しながら指を読み取ると、既に登録済みのページまたはダイアログが登録されます（登録のリプレイは行われません）。

パスワードバンクでダイアログを登録できません。

パスワードバンクは、標準のコントロールを含まないダイアログを正しく処理できません。Microsoft Office のダイアログもこれに該当します。

- ・パスワードバンクは主に、ユーザー名とパスワードを含む簡単に標準的なダイアログを対象としています。複雑なダイアログや標準以外のダイアログに関しては問題が発生することがあります。

登録が正しくリプレイされません。

パスワードバンクのリプレイは、リプレイに使用されるページが登録が作成されたときのページとまったく同一であることを前提としています。

JavaScript を使用して動的に作成されたページ、あるいは同じに見えるがコーディングが変更されているフォームで、問題が発生する場合があります。

考えられる理由：

- ・ Web フォームの内部名が変更されています。登録を編集するか、新しい登録を作成してください。
- ・ 登録済みのダイアログキャプションが変更されています。この場合パスワードバンクの登録を使用することはできません。新しい登録を作成してください。
- ・ 登録済みのダイアログの寸法が変更されています。パスワードバンクでは表示されるたびに異なる寸法になるダイアログを使用することはできません。
- ・ ダイアログに Windows 制御の API が使用されていません(多くの場合、標準的な Windows アプリケーションのような外見ではないダイアログです)。パスワードバンクでこれらのダイアログを使用することはできません。

Firefox ブラウザの使用時、一部の登録は正しく入力されますが、送信は失敗します。

これは、Firefox では高度な Javascript 技術がサポートされていないためです。フォームの自動送信を無効にし、手動で送信する必要があります。

- 1 [コントロールセンター]- [設定]- [ユーザー設定] に移動します。
- 2 [パスワードバンク] タブを選択します。
- 3 登録を選択し、[編集] をクリックします。
- 4 [フォームの自動送信] チェックボックスのチェックをオフにします。

これにより、登録をリプレイすると、フォームに入力されますが送信はされなくなります。フォームを手動で送信する必要があります。[送信] ボタンをクリックするか、Enter キーを押して登録を送信します。

コントロールセンターが実行されている場合、Internet Explorer にはデフォルトのブラウザとして設定するよう求める通知は表示されません。

・説明：これは Internet Explorer の標準的な動作です。Internet Explorer のインスタンス(コントロールセンターなどの Web 制御のコンポーネントを含む) が実行されている場合、Internet Explorer はスタートアップ時に通知を表示しません。

既知の問題：

- 1 64 ビットシステム上で実行中の 32 ビットダイアログの登録はサポートされません
- 2 (Windows Vista のみ)。ユーザーアカウント名が "Administrator" (メモ：これは組み込みアカウントであり、デフォルトでは無効になっています) の場合、パスワードバンクでは Internet Explorer はサポートされません。これは Windows Vista の制限のためです。推奨されるソリューション：別のユーザーアカウントの使用をお勧めします。"Administrator" アカウントの日常業務での使用は、セキュリティ上の理由からもお勧めしません。
- 3 パスワードバンクは、矛盾がある、標準でない、または不適切なコーディングを含む Web ページでは正しく機能しないため、登録から一部のデータが削除される場合があります。そのようなページに対する簡単な回避方法はありません。